

関原発第513号

2022年1月19日

原子力規制委員会 殿

大阪市北区中之島3丁目6番16号

関西電力株式会社

執行役社長 森本 孝

設計及び工事計画認可申請書の一部補正について

2021年7月1日付け関原発第197号をもって申請しました設計及び工事計画認可申請書について、別紙のとおり一部補正します。

本資料のうち、枠囲みの内容は、
商業機密あるいは防護上の観点
から公開できません。

大飯発電所第3号機

設計及び工事計画認可申請書の一部補正

関西電力株式会社

目 次

- I. 補正項目
- II. 補正を必要とする理由を記載した書類
- III. 補正前後比較表
- IV. 補正内容を反映した書類

I. 補正項目

補正項目

補正項目及び補正箇所は下表のとおり。

補正項目	補正箇所
<p>II. 工事計画</p> <p>原子炉冷却系統施設</p> <p>1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の 基本設計方針、適用基準及び適用規格</p> <p>1 2 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）に 係る工事の方法</p>	<p>「III. 補正前後比較表」による。</p> <p>「III. 補正前後比較表」による。</p>
<p>VI. 添付書類</p> <p>1. 添付資料</p> <p>資料 1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する 説明書</p> <p>資料 4 強度に関する説明書</p> <p>資料 5 設計及び工事に係る品質マネジメントシステ ムに関する説明書</p>	<p>「III. 補正前後比較表」による。</p> <p>「III. 補正前後比較表」による。</p> <p>「III. 補正前後比較表」による。</p>

Ⅱ．補正を必要とする理由を記載した書類

補正を必要とする理由

2021年7月1日付け関原発第197号にて申請した設計及び工事計画認可申請書について、「Ⅱ．工事計画」及び「Ⅵ．添付書類」の記載の適正化及び評価対象部位の追加に伴う修正のため補正する。

Ⅲ. 補正前後比較表

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考
<p>変更前</p> <p>うに、重大事故等対処設備を内包する施設により防護することを基本とする。</p> <p>防護措置として設置する竜巻飛来物防護対策設備としては、防護ネット（硬鋼線材・線径φ4mm・網目寸法50mm及び硬鋼線材・線径φ4mm・網目寸法40mm）、防護鋼板（SS400・板厚37mm以上（側面設置）、22mm以上（上面設置））、防護壁（浸水防護施設のうち止水壁を兼ねる。）（3・4号機共用）（鉄筋コンクリート、厚さ400mm以上）及び架構を設置し、内包する防護対象施設の機能を損なわないよう、防護対象施設の機能喪失にいたる可能性のある飛来物が防護対象施設に衝突することを防止する設計とする。竜巻飛来物防護対策設備は、地震時において倒壊しないよう、竜巻飛来物防護対策設備を維持することにより、防護対象施設に波及的影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>防護対象施設及び重大事故等対処設備を内包する施設については、設計荷重に対する構造強度評価を実施し、内包する防護対象施設及び重大事故等対処設備の機能を損なわず、飛来物が内包する防護対象施設及び重大事故等対処設備に衝突することを防止可能な設計又は飛来物の衝突により内包する防護対象施設及び重大事故等対処設備の機能喪失に至るような損傷が生じない設計とすることを基本とする。防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他の適切な措置を講じる設計とする。</p> <p>また、防護対象施設は、設計荷重により、機械的及び機能的な波及的影響により機能を損なわない設計とする。防護対象施設に対し、機械的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、</p>	<p>変更後</p> <p>うに、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する、若しくは位置的分散を考慮した配置により、機能を損なわない設計とすることを^(H2)基本とする。</p> <p>防護措置として設置する竜巻飛来物防護対策設備としては、防護ネット（硬鋼線材・線径φ4mm・網目寸法50mm及び硬鋼線材・線径φ4mm・網目寸法40mm）、防護鋼板（SS400・板厚37mm以上（側面設置）、22mm以上（上面設置））、防護壁（浸水防護施設のうち止水壁を兼ねる。）（3・4号機共用）（鉄筋コンクリート、厚さ400mm以上）及び架構を設置し、内包する防護対象施設の機能を損なわないよう、防護対象施設の機能喪失にいたる可能性のある飛来物が防護対象施設に衝突することを防止する設計とする。竜巻飛来物防護対策設備は、地震時において倒壊しないよう、竜巻飛来物防護対策設備を維持することにより、防護対象施設に波及的影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>防護対象施設及び重大事故等対処設備を内包する施設については、設計荷重に対する構造強度評価を実施し、内包する防護対象施設及び重大事故等対処設備の機能を損なわず、飛来物が内包する防護対象施設及び重大事故等対処設備の機能喪失に至るような損傷が生じない設計とすることを基本とする。防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他の適切な措置を講じる設計とする。</p> <p>また、防護対象施設は、設計荷重により、機械的及び機能的な波及的影響により機能を損なわない設計とする。防護対象施設に対し、</p>	<p>備考</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり)</p>

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変 更 前	変 更 後	備 考								
<table border="1"><thead><tr><th data-bbox="350 487 1092 546">変更前</th><th data-bbox="350 546 1092 1566">変更後</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="379 546 1092 1566"><p>当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p><p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p><p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する設計とする。</p><p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計とする。また、竜巻随伴による溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻随</p></td><td data-bbox="379 546 1092 1566"><p>変更なし</p></td></tr></tbody></table>	変更前	変更後	<p>当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p> <p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する設計とする。</p> <p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計とする。また、竜巻随伴による溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻随</p>	<p>変更なし</p>	<table border="1"><thead><tr><th data-bbox="1448 487 2190 546">変更前</th><th data-bbox="1448 546 2190 1566">変更後</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="1478 546 2190 1566"><p>て、機能的な影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p><p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p><p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する。若しくは位置的分散を考慮した配置により、機能を損なわない設計とする。</p><p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計と</p></td><td data-bbox="1478 546 2190 1566"><p>変更なし</p></td></tr></tbody></table>	変更前	変更後	<p>て、機能的な影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p> <p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する。若しくは位置的分散を考慮した配置により、機能を損なわない設計とする。</p> <p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計と</p>	<p>変更なし</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p> <p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する設計とする。</p> <p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計とする。また、竜巻随伴による溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻随</p>	<p>変更なし</p>									
変更前	変更後									
<p>て、機能的な影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、当該施設の倒壊、損壊及び部材の脱落により防護対象施設に損傷を与えない設計とする。当該施設が機能喪失に陥った場合に、防護対象施設も機能喪失させる機能的影響を及ぼす可能性がある施設は、設計荷重に対し、必要な機能を維持する設計とすることを基本とする。防護対象施設の機能を損なうおそれがある場合には、防護措置、その他適切な措置を講じる。屋外の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重に対し、防護対象施設に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>竜巻の発生のおそれがある場合、タンクローリーは、竜巻の影響を受けない場所に退避させることで必要な機能を維持する設計とし、タンクローリーの退避及び避難ルートの確保については運用を保安規定に定める。また、アニュラスの閉じ込め機能にかかると運用についても保安規定に定める。</p> <p>屋内の重大事故等対処設備は、竜巻による風圧力による荷重を考慮して他の設備に悪影響を及ぼさないよう、重大事故等対処設備を内包する施設により防護する。若しくは位置的分散を考慮した配置により、機能を損なわない設計とする。</p> <p>竜巻随伴現象を考慮する施設は、過去の竜巻被害の状況及び発電所における施設の配置から竜巻随伴現象として想定される火災、溢水及び外部電源喪失についても考慮し、竜巻の随伴現象に対する影響評価を実施し、防護対象施設及び重大事故等対処設備に竜巻による随伴現象の影響を及ぼさない設計とする。竜巻随伴による火災に対しては、火災による損傷の防止における想定に包含される設計と</p>	<p>変更なし</p>									

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="341 1052 371 1602">変更前</th> <th data-bbox="341 497 371 1052">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="371 1052 1101 1602"> <p>伴による外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>イ. 直接的影響に対する設計方針</p> </td> <td data-bbox="371 497 1101 1052"> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 変更なし</p> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>伴による外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>イ. 直接的影響に対する設計方針</p>	<p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 変更なし</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1439 1052 1469 1602">変更前</th> <th data-bbox="1439 497 1469 1052">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1469 1052 2199 1602"> <p>する。また、竜巻に伴う溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻に伴いによる外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1469 497 2199 1052"> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>する。また、竜巻に伴う溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻に伴いによる外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p>	<p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化 (後頁の適正化に伴い記載)</p> <p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>伴による外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>イ. 直接的影響に対する設計方針</p>	<p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 変更なし</p>									
変更前	変更後									
<p>する。また、竜巻に伴う溢水に対しては、溢水による損傷の防止における溢水量の想定に包含される設計とする。さらに、竜巻に伴いによる外部電源喪失に対しては、代替設備による電源供給が可能な設計とする。</p> <p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚10cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p>	<p>b. 火山 防護対象施設は、発電所の運用期間中に安全性に影響を及ぼし得る火山事象として設置（変更）許可を受けた降下火砕物の特性を設定し、その降下火砕物が発生した場合においても、防護対象施設が安全機能を損なうおそれがない設計とする。 重大事故等対処設備は、「5. 1. 5 環境条件等」を考慮した設計とする。 なお、定期的に新知見の確認を行い、新知見が得られた場合に評価する運用とする。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた最大層厚25cm、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³（乾燥状態）～1.5g/cm³（湿潤状態）と設定する。</p> <p>(b) 降下火砕物に対する防護対策 降下火砕物の影響を考慮する施設は、降下火砕物による「直接的影響」及び「間接的影響」に対して、以下の適切な防護措置を講じることによって安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p>									

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変 更 前	変 更 後	備 考								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋外の重大事故等対処設備に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。</p> </td> <td style="vertical-align: top; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">変更なし</div> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>(イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋外の重大事故等対処設備に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">変更なし</div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、降下火砕物による荷重並びに火山と組み合わせた積雪及び風（台風）の荷重による短期的な荷重として考慮し、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう構造健全性を維持する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p>	<p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、降下火砕物による荷重並びに火山と組み合わせた積雪及び風（台風）の荷重による短期的な荷重として考慮し、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう構造健全性を維持する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>(イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋外の重大事故等対処設備に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">変更なし</div>									
変更前	変更後									
<p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう許容荷重が降下火砕物、風（台風）及び積雪による組合せを考慮した荷重に対して安全裕度を有する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p>	<p>イ. 直接的影響に対する設計方針 (イ) 構造物への荷重 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類）に属する施設（以下「クラス3に属する施設」という。）のうち、屋外に設置している施設、並びに防護対象施設を内包し降下火砕物からその施設を防護する建屋で、降下火砕物が堆積しやすい屋根構造を有する施設については、降下火砕物を除去することにより、降下火砕物による荷重並びに火山と組み合わせた積雪及び風（台風）の荷重による短期的な荷重として考慮し、短期的な荷重に対して安全機能を損なうおそれがないよう構造健全性を維持する設計とする。 なお、荷重により構造健全性を失わないよう、降灰時には当該施設に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 屋内の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による短期的な荷重により機能を損なわないように、降下火砕物による組合せを考慮した荷重に対し安全裕度を有する建屋内に設置する設計とする。 屋外の重大事故等対処設備については、環境条件を考慮して降下火砕物による荷重により機能を損なわないように、直ちに影響は無いものの降下火砕物を除去することにより、重大事故等対処設備の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない設計とする。 なお、必要な機能が損なわれるおそれがないよう、降灰時には屋</p>									

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">変更前</p> <p>(ロ) 閉塞 i. 水循環系の閉塞 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3に属する施設のうち、屋外に開口しており降下火砕物を含む海水の流路となる施設について、降下火砕物の粒径より大きな流水部を設けることにより、水循環系の狭隘部が閉塞しない設計とする。 なお、降下火砕物により水循環系が閉塞しないよう、降灰時には点検を行い、状況に応じてストレーナを洗浄することを保安規定に定める。 ii. 換気系、電気系及び計装制御系に対する機械的影響（閉塞） 防護対象施設、防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3に属する施設及びその他の施設のうち、屋外に開口しており降下火砕物を含む空気の流路となる換気空調系（外気取入口）については、開口部を下向きの構造とすること、又はフィルタを設置することにより降下火砕物が侵入しにくい構造とし、降下火砕物により閉塞しない設計とする。 換気空調系以外の降下火砕物を含む空気の流路となる施設についても、降下火砕物が侵入しにくい構造、又は降下火砕物が侵入した場合でも、降下火砕物により流路が閉塞しない設計とする。 なお、降下火砕物により閉塞しないよう、降灰時には点検を行い、状況に応じて換気空調系のフィルタの清掃や取替えの実施について保安規定に定める。</p>	<p style="text-align: center;">変更後</p> <p style="text-align: center;">[]</p> <p style="text-align: center;">変更なし</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化 (前頁の適正化に伴い記載)</p>
<p style="text-align: center;">変更前</p> <p>外の重大事故等対処設備に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 (ロ) 閉塞 i. 水循環系の閉塞 防護対象施設及び防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3に属する施設のうち、屋外に開口しており降下火砕物を含む海水の流路となる施設について、降下火砕物の粒径より大きな流水部を設けることにより、水循環系の狭隘部が閉塞しない設計とする。 なお、降下火砕物により水循環系が閉塞しないよう、降灰時には点検を行い、状況に応じてストレーナを洗浄することを保安規定に定める。 ii. 換気系、電気系及び計装制御系に対する機械的影響（閉塞） 防護対象施設、防護対象施設に影響を及ぼす可能性のあるクラス3に属する施設及びその他の施設のうち、屋外に開口しており降下火砕物を含む空気の流路となる換気空調系（外気取入口）については、開口部を下向きの構造とすること、又はフィルタを設置することにより降下火砕物が侵入しにくい構造とし、降下火砕物により閉塞しない設計とする。 換気空調系以外の降下火砕物を含む空気の流路となる施設についても、降下火砕物が侵入しにくい構造、又は降下火砕物が侵入した場合でも、降下火砕物により流路が閉塞しない設計とする。 なお、降下火砕物により閉塞しないよう、降灰時には点検を行い、状況に応じて換気空調系のフィルタの清掃や取替えの実施について保安規定に定める。</p>	<p style="text-align: center;">変更後</p> <p>外の重大事故等対処設備に堆積する降下火砕物を除去することを保安規定に定める。 (ロ) 閉塞 変更なし</p>	<p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり (03-II-3-11-13~03-II-3-11-32 同様に記載内容繰り下がり))</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<table border="1"><thead><tr><th data-bbox="332 487 379 1050">変更前</th><th data-bbox="332 1050 379 1612">変更後</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="379 487 676 1050"><p>がある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p><p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p><p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 □</p></td><td data-bbox="379 1050 676 1612"><p>変更なし</p></td></tr></tbody></table>	変更前	変更後	<p>がある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p> <p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p> <p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 □</p>	<p>変更なし</p>	<table border="1"><thead><tr><th data-bbox="1430 487 1478 1050">変更前</th><th data-bbox="1430 1050 1478 1612">変更後</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="1478 487 1834 1050"><p>いように、遮蔽の設置や線源からの距離により放射線量が高くなるおそれのない場所を選定するが、放射線量が高くなるおそれがある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p><p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p><p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 (注2) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和3年12月2日付け原規規発第2112024号にて認可された設計及び工事の計画による。</p></td><td data-bbox="1478 1050 1834 1612"><p>変更なし</p></td></tr></tbody></table>	変更前	変更後	<p>いように、遮蔽の設置や線源からの距離により放射線量が高くなるおそれのない場所を選定するが、放射線量が高くなるおそれがある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p> <p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p> <p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 (注2) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和3年12月2日付け原規規発第2112024号にて認可された設計及び工事の計画による。</p>	<p>変更なし</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p>
変更前	変更後									
<p>がある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p> <p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p> <p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 □</p>	<p>変更なし</p>									
変更前	変更後									
<p>いように、遮蔽の設置や線源からの距離により放射線量が高くなるおそれのない場所を選定するが、放射線量が高くなるおそれがある場合は、追加の遮蔽の設置により、当該設備の設置、及び常設設備との接続が可能な設計とする。</p> <p>(5) 冷却材の性状 冷却材を内包する安全施設は、水質管理基準を定めて水質を管理することにより異物の発生を防止する設計とする。 安全施設及び重大事故等対処施設は、系統外部異物が流入する可能性のある系統に対しては、ストレーナ等を設置することにより、その機能を有効に発揮できる設計とする。</p> <p>(注1) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和2年12月22日付け原規規発第20122226号にて認可された設計及び工事の計画による。 (注2) 記載の適正化を行う。記載内容は、令和3年12月2日付け原規規発第2112024号にて認可された設計及び工事の計画による。</p>	<p>変更なし</p>									

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">変更前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 溶接規格 (2012年版 (2013年追補を含む。)) (JSME S NBI-2012/2013)」 ・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 設計・建設規格 (JSME S NCI-2001) 及び (JSME S NCI-2005) 【事例規格】 発電用原子炉設備における「応力腐食割れ発生の抑制」に対する考慮 (NC-CC-002)」 <small>(注1)</small> ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 (JEAG4601・補-1984)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1991追補版)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術規程 (JEAC4601-2008)」 ・日本電気協会「原子炉発電所配管破損防護設計技術指針 (JEAG4613-1998)」 ・コンクリート標準示方書【構造性能照査編】(土木学会、2002年) ・<u>原子炉発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル</u> <p style="text-align: center;">変更後</p>	<p style="text-align: center;">変更後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 溶接規格 (2012年版 (2013年追補を含む。)) (JSME S NBI-2012/2013)」 ・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 設計・建設規格 (JSME S NCI-2001) 及び (JSME S NCI-2005) 【事例規格】 発電用原子炉設備における「応力腐食割れ発生の抑制」に対する考慮 (NC-CC-002)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 (JEAG4601・補-1984)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1991追補版)」 ・日本電気協会「原子炉発電所耐震設計技術規程 (JEAC4601-2008)」 ・日本電気協会「原子炉発電所配管破損防護設計技術指針 (JEAG4613-1998)」 ・コンクリート標準示方書【構造性能照査編】(土木学会、2002年) ・<u>原子炉発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル</u> <small>(土木学会、2005年) (注1)</small> <p style="text-align: center;">変更前</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁記載内容繰り下がり (03-II-3-11-適6~03-II-3-11-適8 同様に記載内容繰り下がり))</p>

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>S NJ-2012」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」 <small>(注1)</small></p> </td> <td style="vertical-align: top; text-align: center;"> <p>変更なし</p> </td> </tr> </table> <p>(注1) 記載の適正化を行う。基準及び規格名称の統一化 (記載順序、半角全角等)</p> <p>上記の他「原子炉発電所の火山影響評価ガイド」、「原子炉発電所の外部火災影響評価ガイド (原規技発第13061912号 (平成25年6月19日原子力規制委員会制定)) 原子力規制委員会」、「原子炉発電所の竜巻影響評価ガイド (平成25年6月19日原規技発第13061911号 原子力規制委員会決定 (改正平成26年9月17日原規技発第1409172号 原子力規制委員会決定))」、「原子炉発電所の内部火災影響評価ガイド (平成25年10月24日 原規技発第1310241号原子力規制委員会)」、「耐震設計に係る工事審査ガイド」を参照する。</p> <p>なお、表1については、平成29年8月25日付け原規発第1708254号にて認可された工事計画による。</p>	変更前	変更後	<p>S NJ-2012」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」 <small>(注1)</small></p>	<p>変更なし</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」</p> </td> <td style="vertical-align: top; text-align: center;"> <p>変更なし</p> </td> </tr> </table> <p>(注1) 記載の適正化を行う。基準及び規格名称の統一化 (記載順序、半角全角等)</p> <p>上記の他「原子炉発電所の火山影響評価ガイド」、「原子炉発電所の外部火災影響評価ガイド (原規技発第13061912号 (平成25年6月19日原子力規制委員会制定)) 原子力規制委員会」、「原子炉発電所の竜巻影響評価ガイド (平成25年6月19日原規技発第13061911号 原子力規制委員会決定 (改正平成26年9月17日原規技発第1409172号 原子力規制委員会決定))」、「原子炉発電所の内部火災影響評価ガイド (平成25年10月24日 原規技発第1310241号原子力規制委員会)」、「耐震設計に係る工事審査ガイド」を参照する。</p> <p>なお、表1については、平成29年8月25日付け原規発第1708254号にて認可された工事計画による。</p>	変更前	変更後	<p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」</p>	<p>変更なし</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p>
変更前	変更後									
<p>S NJ-2012」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」 <small>(注1)</small></p>	<p>変更なし</p>									
変更前	変更後									
<p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2012年版 (2013年追補及び2014年追補を含む。)) (JSME S NA1-2012/2013/2014)」 <small>(注1)</small></p> <p>・機械工学便覧「材料力学」</p> <p>・日本機械学会「発電用原子炉設備規格 維持規格 (2008年版) (JSME S NA1-2008)」</p>	<p>変更なし</p>									

【Ⅱ. 工事計画 原子炉冷却系統施設 1 2 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）に係る工事の方法】

変更前	変更後	備考
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">変更前</p> <p style="text-align: center;">変更後</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>※1: 下記の加工の工程ごとに構造、強度又は漏えいに関する検査を実施する。 ①燃料材、燃料被覆材その他の部品については、組成、構造又は強度に係る試験をすることができる状態になった時 ②燃料要素の加工が完了した時 ③加工が完了した時</p> <p>※2: 燃料体を発電用原子炉に受け入れた後は、原子炉本体として機能又は性能に係る検査を実施する。</p> <p>※3: 品質マネジメントシステムに係る検査は、工事の数、工事期間を考慮して適切な時期と頻度で実施する。</p> <p>※4: 立会、抜取り立会、記録確認のいずれかで実施するかは、重要度に応じて個別の使用前事業者検査要領書で定める。</p> <p>【凡例】 ◊: 品質マネジメントシステムに係る検査以外の使用前事業者検査の検査項目（適切な時期に以下のうち必要な検査を実施） a. 構造、強度又は漏えいに関する検査 ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・表面汚染密度検査 ・溶接部の非破壊検査 ・漏えい検査 ◊: 品質マネジメントシステムに係る検査</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図3 工事の手順と使用前事業者検査のフロー（燃料体）</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">変更前</p> <p style="text-align: center;">変更後</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>※1: 下記の加工の工程ごとに構造、強度又は漏えいに関する検査を実施する。 ①燃料材、燃料被覆材その他の部品については、組成、構造又は強度に係る試験をすることができる状態になった時 ②燃料要素の加工が完了した時 ③加工が完了した時</p> <p>※2: 燃料体を発電用原子炉に受け入れた後は、原子炉本体として機能又は性能に係る検査を実施する。</p> <p>※3: 品質マネジメントシステムに係る検査は、工事の数、工事期間を考慮して適切な時期と頻度で実施する。</p> <p>※4: 立会、抜取り立会、記録確認のいずれかで実施するかは、重要度に応じて個別の使用前事業者検査要領書で定める。</p> <p>【凡例】 ◊: 品質マネジメントシステムに係る検査以外の使用前事業者検査の検査項目（適切な時期に以下のうち必要な検査を実施） a. 構造、強度又は漏えいに関する検査 ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・表面汚染密度検査 ・溶接部の非破壊検査 ・漏えい検査 ・圧力検査 ◊: 品質マネジメントシステムに係る検査</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図3 工事の手順と使用前事業者検査のフロー（燃料体）</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書 1-1 発電用原子炉設置変更許可申請書「本文(五号)」との整合性】

変更前	変更後	備考												
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="281 354 578 388">設計及び工事の計画 該当事項</th> <th data-bbox="578 354 1124 388">整合性</th> <th data-bbox="1124 354 1264 388">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="281 388 578 1726"> <p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p> </td> <td data-bbox="578 388 1124 1726"> <p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p> </td> <td data-bbox="1124 388 1264 1726"> <p>- 03-添1-1-a-1/B -</p> </td> </tr> </tbody> </table>	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考	<p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p>	<p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p>	<p>- 03-添1-1-a-1/B -</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1380 354 1676 388">設計及び工事の計画 該当事項</th> <th data-bbox="1676 354 2193 388">整合性</th> <th data-bbox="2193 354 2359 388">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1380 388 1676 1726"> <p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1676 388 2193 1726"> <p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p> </td> <td data-bbox="2193 388 2359 1726"> <p>- 03-添1-1-a-1/B -</p> </td> </tr> </tbody> </table>	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考	<p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p>	<p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p>	<p>- 03-添1-1-a-1/B -</p>	<p>備考</p> <p>頁追加に伴う頁番号の変更</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>
設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考												
<p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p>	<p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p>	<p>- 03-添1-1-a-1/B -</p>												
設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考												
<p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備 ロ、発電用原子炉施設の一部構造 (3) その他の主要な構造 (1) 本原子炉施設は、(1) 耐震構造、(2) 耐津波構造に加え、以下の基本的方針のもとに安全設計を行う。 a. 設計基準対象施設 (a) 外部からの衝撃による損傷の防止 <中略></p> <p>(a-2) 安全施設は、発電所の運用期間中において発電所の安全機能に影響を及ぼし得る火山現象として設定した最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)の落下火砕物に対し、その直接的影響での建屋構造への脆弱性を有する設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対して落下火砕物が侵入しにくい設計とすること、水循環系の閉塞に対して配管部等が閉塞しない設計とすること、換気系、電気系及び材料制御系に対する構造的影響(閉塞)に対する構造的影響(閉塞)に対して閉塞しにくい設計とすること、構造物の化学的影響(腐食)、水循環系の化学的影響(腐食)及び換気系、電気系及び材料制御系に対する化学的影響(腐食)に対して建屋での閉塞が発生しない設計とすること、発電所周辺の大気汚染に対して中央制御室の換気空調系は落下火砕物が侵入しにくく、さらに外気を遮断できる設計とすること、さらに外気を遮断できない設計とすること、施設底下に対して変気を取り込みが構造的に不利な設計とすること、また、落下火砕物の落下によるアセス制限対象に対し、発電所の安全性能を維持するため、燃料貯蔵設備からディーゼル発電機への燃料供給、並びにディーゼル発電機による必要となる電圧の供給が確保でき、夜間機能を果たすことのない設計とする。</p>	<p>【原子炉施設等設計】 (基本設計方針) 「共通項目」 2. 自然現象 2. 3. 外部からの衝撃による損傷の防止 2. 3. 3. 設計方針 (1) 自然現象 b. 火山 <中略> (a) 防護設計における落下火砕物の特性の設定 設計に用いる落下火砕物は、設置(変更)許可を受けた最大噴算状態、粒径1mm以下、密度0.7g/cm³(乾燥状態)～1.5g/cm³(飽和状態)と設定する。</p>	<p>- 03-添1-1-a-1/B -</p>												

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-1 火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針】

変 更 前	変 更 後	備 考																													
<p style="text-align: center;">第4-5表 建屋の許容限界(1/5) (d) 廃棄物処理建屋</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>要求機能</th> <th>機能設計上の性能目標</th> <th>部位</th> <th>機能維持のための考え方</th> <th>許容限界(評価基準値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">—</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること</td> <td style="text-align: center;">屋根スラブ</td> <td style="vertical-align: top;">部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td style="text-align: center;">「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">耐震壁</td> <td style="vertical-align: top;">最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td style="text-align: center;">最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ)^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※1:許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、評価基準値はさらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。</p>	要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	—	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}	<p style="text-align: center;">第4-5表 建屋の許容限界(1/5) (d) 廃棄物処理建屋</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>要求機能</th> <th>機能設計上の性能目標</th> <th>部位</th> <th>機能維持のための考え方</th> <th>許容限界(評価基準値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">—</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること</td> <td style="text-align: center;">屋根スラブ</td> <td style="vertical-align: top;">部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td style="text-align: center;">「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">RC梁</td> <td style="vertical-align: top;">部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td style="text-align: center;">「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">耐震壁</td> <td style="vertical-align: top;">最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td style="text-align: center;">最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ)^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※1:許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、評価基準値はさらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。</p>	要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	—	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	RC梁	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}	<p>評価対象部位追加に伴う変更</p>
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)																											
—	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																											
		耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}																											
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)																											
—	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																											
		RC梁	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																											
		耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}																											
- 03-別添1-1-21 -	- 03-別添1-1-21 -																														

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-1 火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針】

変更前					変更後					備考
第4-5表 建屋の許容限界(5/5) (e) 緊急時対策所建屋					第4-5表 建屋の許容限界(5/5) (e) 緊急時対策所建屋					評価対象部位追加に伴う変更
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	
-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※3}	-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※3}	
		耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※3}			RC梁	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※3}	
※1 遮蔽性	遮蔽体の損傷により遮蔽性を損なわないこと	屋根スラブ	部材に生じる応力が遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※3}	※1 遮蔽性	遮蔽体の損傷により遮蔽性を損なわないこと	屋根スラブ	部材に生じる応力が遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※3}	
		耐震壁	最大せん断ひずみが遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 2.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※4}			耐震壁	最大せん断ひずみが遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※3}	
※2 気密性	換気性能とあいまって気密性を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」に基づく短期許容応力度	※2 気密性	換気性能とあいまって気密性を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N規準」に基づく短期許容応力度	
		耐震壁	最大せん断ひずみが気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	概ね弾性 (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※4}			耐震壁	最大せん断ひずみが気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	概ね弾性 (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※4}	
※1: 緊急時対策所建屋の一部を構成している緊急時対策所遮蔽を対象とする。 ※2: 緊急時対策所は、居住性の評価を行っており、緊急時制御室換気設備の処理対象となるバウンダリを定めていることから、気密性の維持についても確認を行う。 ※3: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、さらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。 ※4: 内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持するための評価基準値をせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみとすることから、評価基準値としてせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみを適用する。					※1: 緊急時対策所建屋の一部を構成している緊急時対策所遮蔽を対象とする。 ※2: 緊急時対策所は、居住性の評価を行っており、緊急時制御室換気設備の処理対象となるバウンダリを定めていることから、気密性の維持についても確認を行う。 ※3: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、さらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。 ※4: 内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持するための評価基準値をせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみとすることから、評価基準値としてせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみを適用する。					
- 03-別添1-1-22 -					- 03-別添1-1-22 -					

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 03-別添1-3-1</p> <p>2. 基本方針 03-別添1-3-2</p> <p> 2.1 位置 03-別添1-3-2</p> <p> 2.2 構造概要 03-別添1-3-3</p> <p> 2.3 評価方針 03-別添1-3-13</p> <p> 2.4 適用規格 03-別添1-3-15</p> <p>3. 強度評価方法 03-別添1-3-16</p> <p> 3.1 評価対象部位 03-別添1-3-16</p> <p> 3.2 荷重及び荷重の組合せ 03-別添1-3-17</p> <p> 3.3 許容限界 03-別添1-3-28</p> <p> 3.4 評価方法 03-別添1-3-34</p> <p>4. 強度評価結果 03-別添1-3-56</p> <p> 4.1 屋根 03-別添1-3-56</p> <p> 4.2 耐震壁 03-別添1-3-57</p> <p> 4.3 鉄骨架構 03-別添1-3-62</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-i -</p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 03-別添1-3-1</p> <p>2. 基本方針 03-別添1-3-2</p> <p> 2.1 位置 03-別添1-3-2</p> <p> 2.2 構造概要 03-別添1-3-3</p> <p> 2.3 評価方針 03-別添1-3-13</p> <p> 2.4 適用規格 03-別添1-3-15</p> <p>3. 強度評価方法 03-別添1-3-16</p> <p> 3.1 評価対象部位 03-別添1-3-16</p> <p> 3.2 荷重及び荷重の組合せ 03-別添1-3-17</p> <p> 3.3 許容限界 03-別添1-3-28</p> <p> 3.4 評価方法 03-別添1-3-34</p> <p>4. 強度評価結果 03-別添1-3-58</p> <p> 4.1 屋根 03-別添1-3-58</p> <p> 4.2 耐震壁 03-別添1-3-59</p> <p> 4.3 鉄骨架構 03-別添1-3-64</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-i -</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">頁追加に伴う頁番号の変更</p>

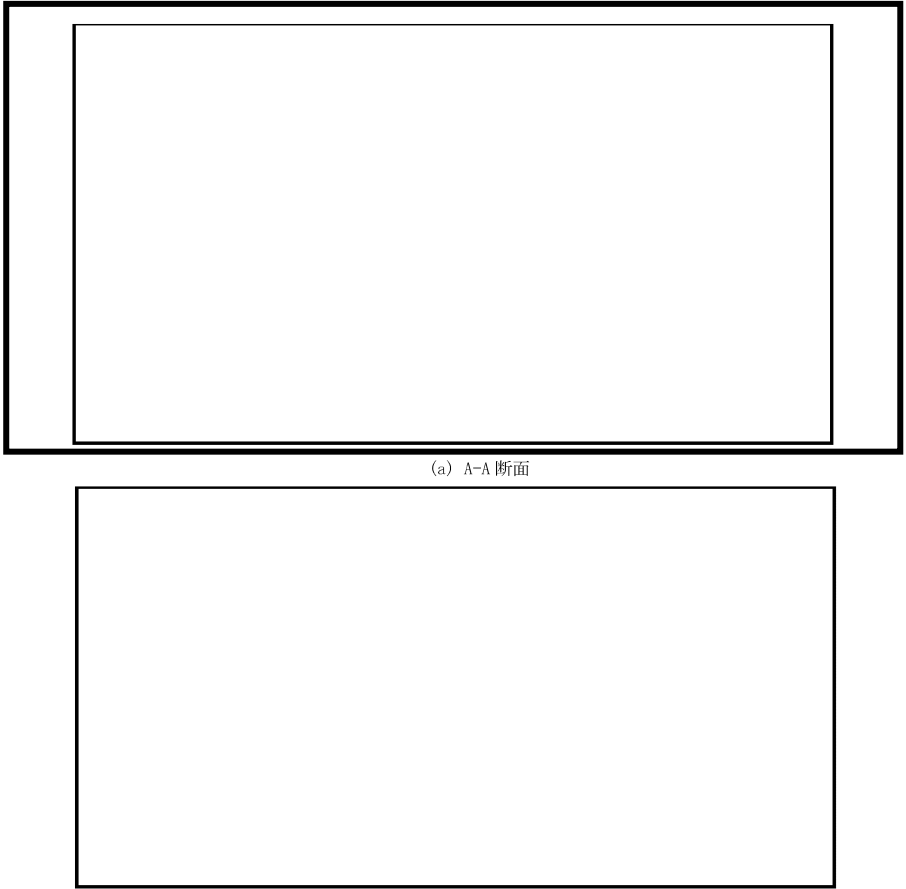
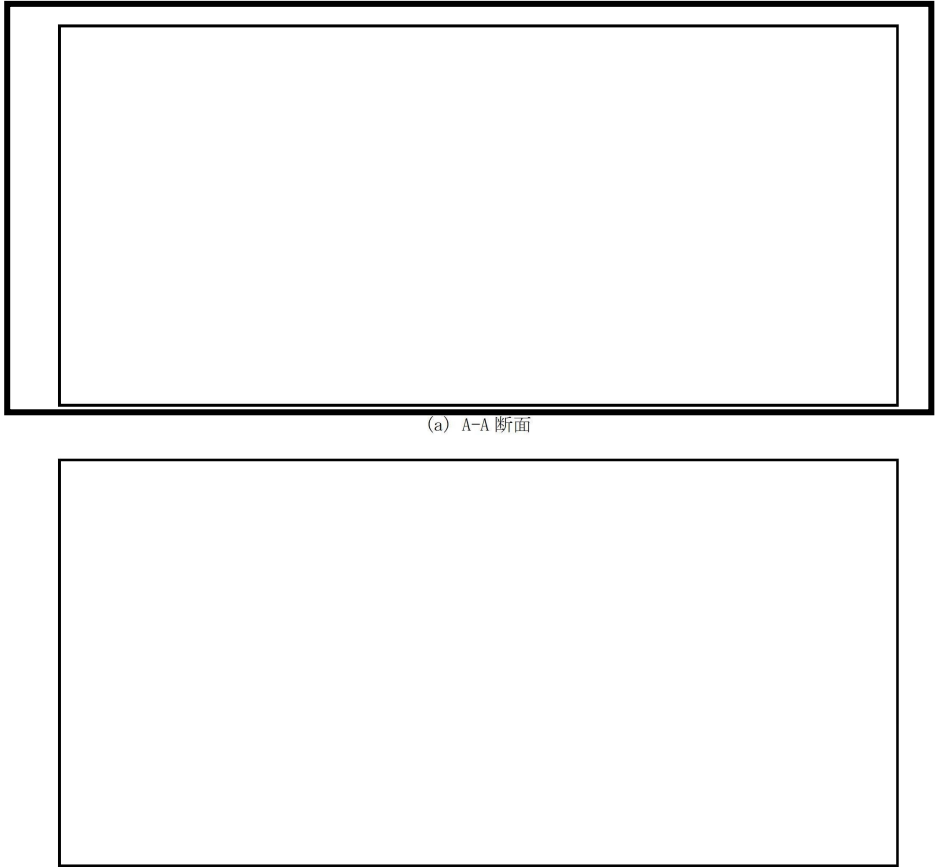
大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
<p>2.2 構造概要</p> <p>原子炉格納容器、原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋は、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「3.2 機能維持の方針」に示す構造計画を踏まえて、構造を設定する。</p> <p>原子炉格納容器(プレストレストコンクリート製原子炉格納容器)(PCCV)は、上部シェル(プレストレストコンクリート部分及び底部の鉄筋コンクリート部分(以下「コンクリート部」という。))で構成する構造体であり、耐漏洩性を確保する目的でライナが内張りされている。プレストレストコンクリート部(以下「シェル部」という。)は、膜引張応力を低減する目的でプレストレスを与えた鉄筋コンクリート構造であり、内径約□m、厚さ約□mの半球形状のドーム及び底部とドームの間の内径約□m、厚さ約□mの円筒形状の胴で形成される。また、シェル部は外部遮蔽としての機能も有している。</p> <p>原子炉周辺建屋は、4層の主要床面を有しており、鉄筋コンクリート造の壁式構造を主体とし、一部を鉄骨造の骨組構造とした建物である。本建物の平面規模はNS方向で約□m、EW方向で約□mであり、主要屋根面の基礎底面からの高さは約□mである。</p> <p>制御建屋は、5層の主要床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造を主体とした建物である。本建物の平面規模はNS方向約□m、EW方向約□mであり、主要屋根面の基礎底面からの高さは□mである。</p> <p>廃棄物処理建屋は、4層の床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造の建物である。本建物の平面規模はNS方向で約□m、EW方向で約□mであり、最高屋根面の基礎底面からの高さは□mである。</p> <p>緊急時対策所建屋の2層の主要床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造の建物である。本建物の平面規模は、NS方向で約□m、EW方向で約□mであり、屋根面の基礎底面からの高さは約□mである。</p> <p>原子炉格納容器、原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋の概略平面図及び概略断面図を第2-2図～第2-9図に示す。</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-3 -</p>	<p>2.2 構造概要</p> <p>原子炉格納容器、原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋は、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「3.2 機能維持の方針」に示す構造計画を踏まえて、構造を設定する。</p> <p>原子炉格納容器(プレストレストコンクリート製原子炉格納容器)(PCCV)は、上部シェル(プレストレストコンクリート部分及び底部の鉄筋コンクリート部分(以下「コンクリート部」という。))で構成する構造体であり、耐漏洩性を確保する目的でライナが内張りされている。プレストレストコンクリート部(以下「シェル部」という。)は、膜引張応力を低減する目的でプレストレスを与えた鉄筋コンクリート構造であり、内径約□m、厚さ約□mの半球形状のドーム及び底部とドームの間の内径約□m、厚さ約□mの円筒形状の胴で形成される。また、シェル部は外部遮蔽としての機能も有している。</p> <p>原子炉周辺建屋は、4層の主要床面を有しており、鉄筋コンクリート造の壁式構造を主体とし、一部を鉄骨造の骨組構造とした建物である。本建物の平面規模はNS方向で約□m、EW方向で約□mであり、主要屋根面の基礎底面からの高さは約□mである。</p> <p>制御建屋は、5層の主要床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造を主体とした建物である。本建物の平面規模はNS方向約□m、EW方向約□mであり、主要屋根面の基礎底面からの高さは□mである。</p> <p>廃棄物処理建屋は、4層の床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造の建物である。本建物の平面規模はNS方向で約□m、EW方向で約□mであり、最高屋根面の基礎底面からの高さは□mである。</p> <p>緊急時対策所建屋の2層の主要床面を有する、鉄筋コンクリート造の壁式構造の建物である。本建物の平面規模は、NS方向で約□m、EW方向で約□mであり、屋根面の基礎底面からの高さは約□mである。</p> <p>原子炉格納容器、原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋の概略平面図及び概略断面図を第2-2図～第2-9図に示す。</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-3 -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

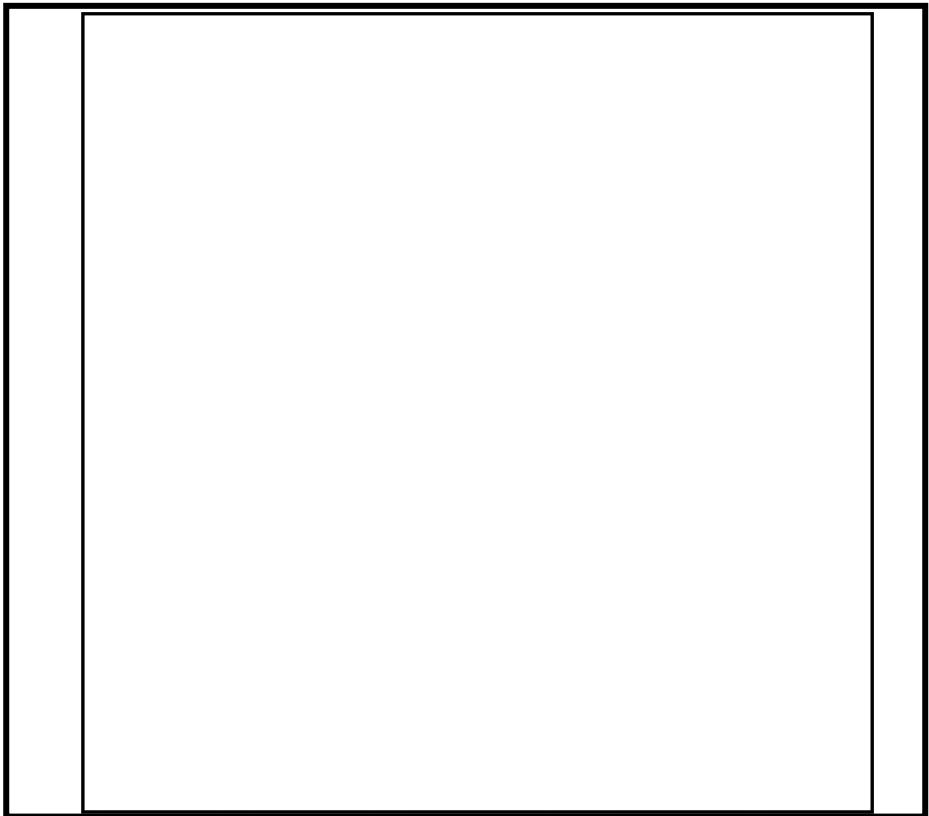
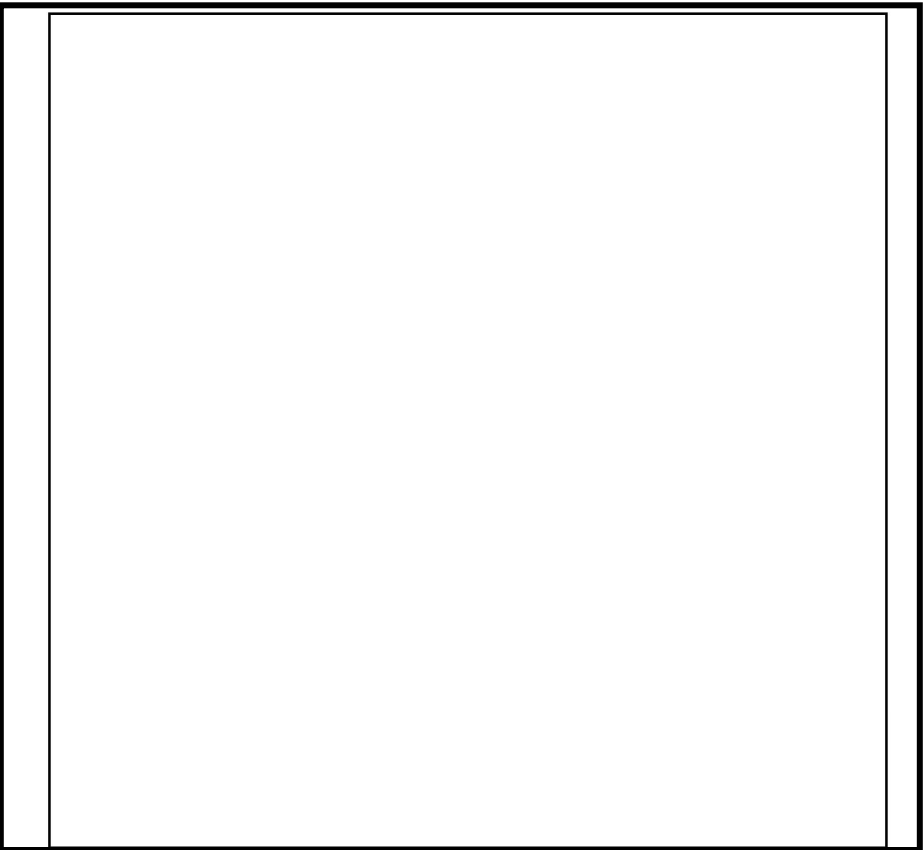
大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

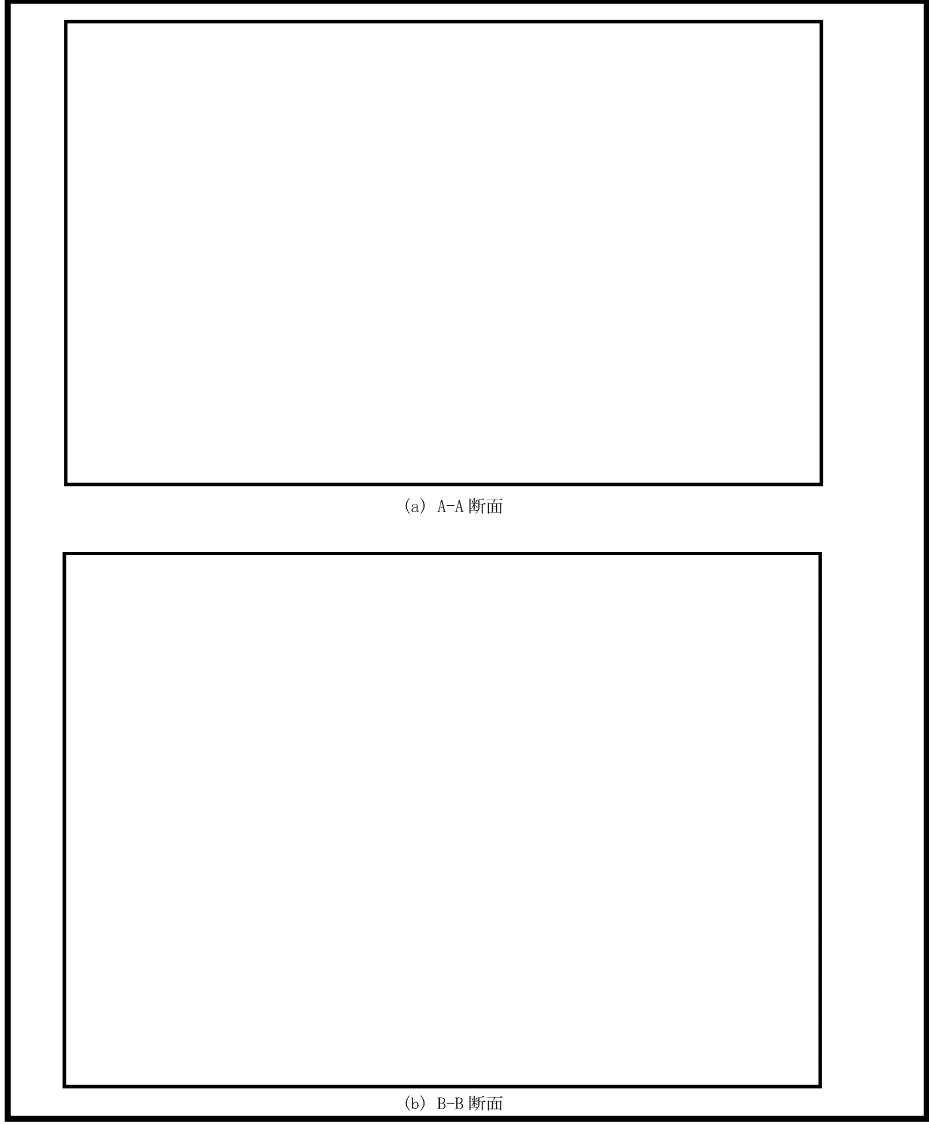
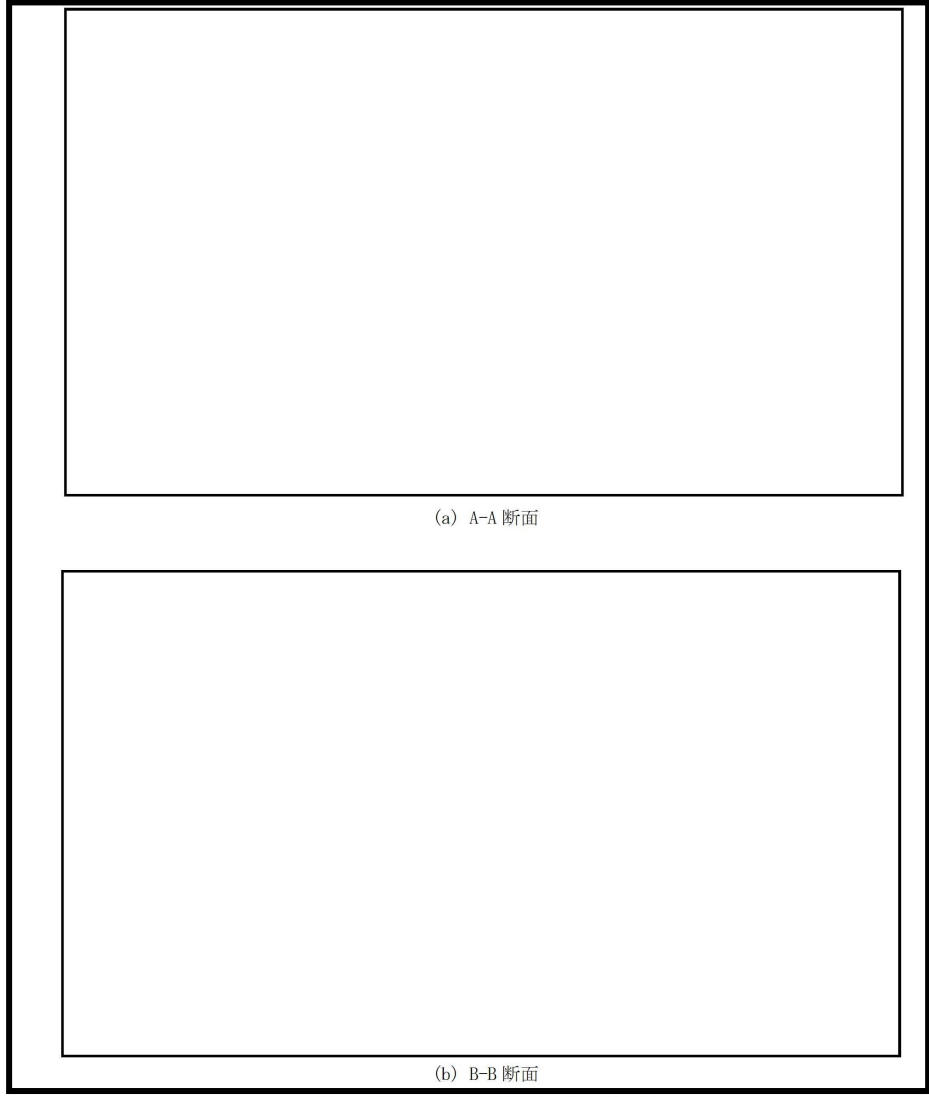
変 更 前	変 更 後	備 考
 <p>(a) A-A 断面</p> <p>(b) B-B 断面</p> <p>第2-5図 制御建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-8 -</p>	 <p>(a) A-A 断面</p> <p>(b) B-B 断面</p> <p>第2-5図 制御建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-8 -</p>	<p>記載の適正化</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

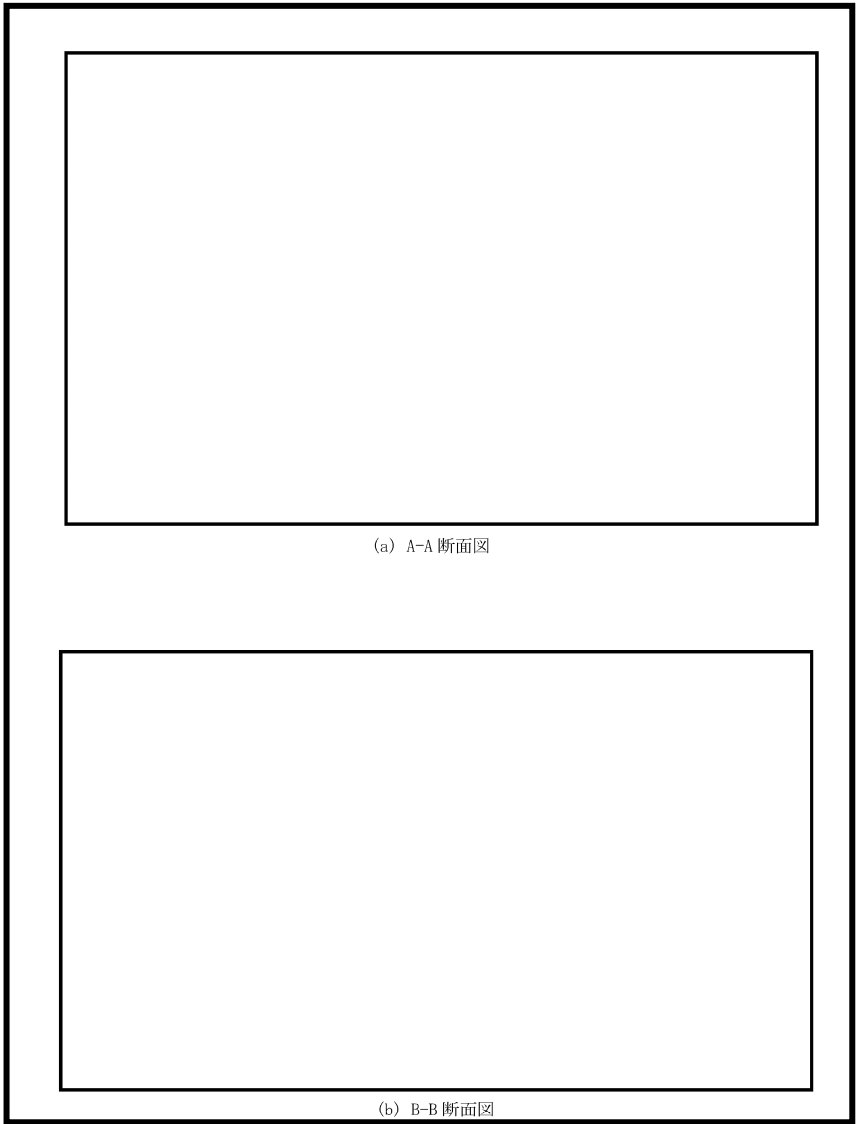
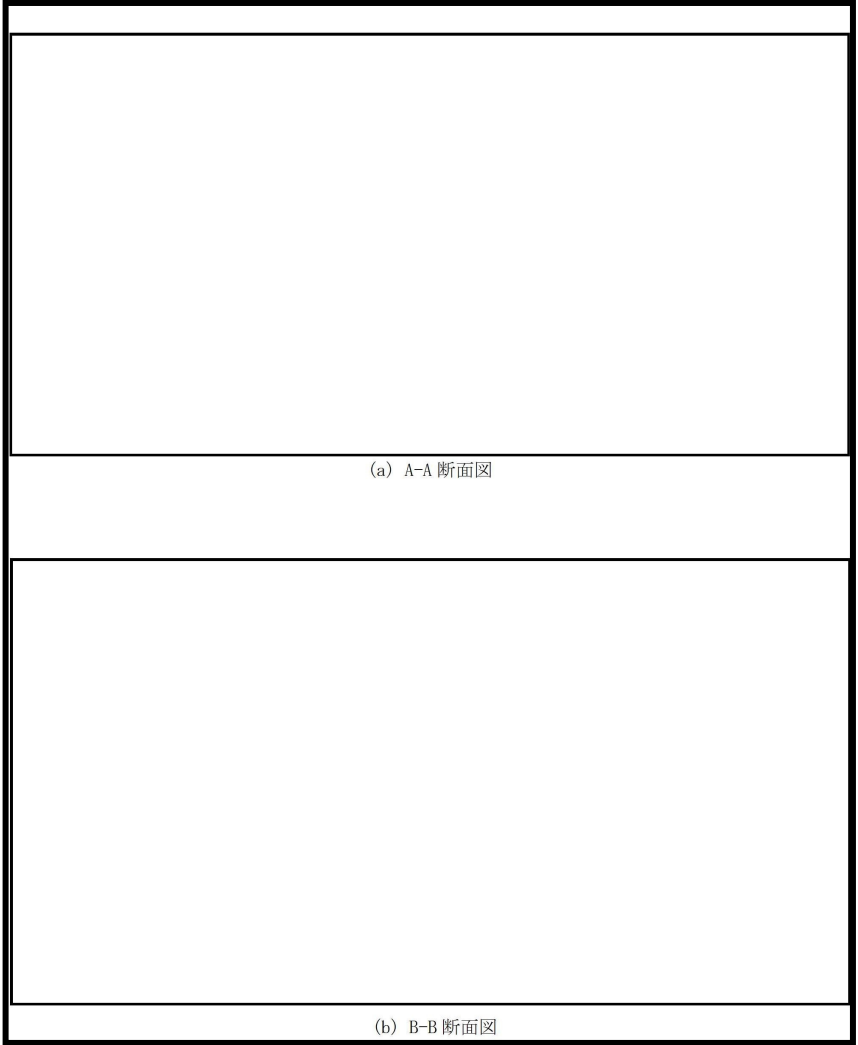
【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
 <p data-bbox="519 1228 964 1249">第2-6図 廃棄物処理建屋の概略平面図(E.L. □ m 付近)</p> <p data-bbox="638 1627 786 1648">- 03-別添1-3-9 -</p>	 <p data-bbox="1617 1239 2062 1260">第2-6図 廃棄物処理建屋の概略平面図(E.L. □ m 付近)</p> <p data-bbox="1751 1659 1899 1680">- 03-別添1-3-9 -</p>	<p data-bbox="2374 840 2522 871">記載の充実</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
 <p>(a) A-A 断面</p> <p>(b) B-B 断面</p> <p>第2-7図 廃棄物処理建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-10 -</p>	 <p>(a) A-A 断面</p> <p>(b) B-B 断面</p> <p>第2-7図 廃棄物処理建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-10 -</p>	<p>記載の充実</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
 <p>(a) A-A 断面図</p> <p>(b) B-B 断面図</p> <p>第2-9図 緊急時対策所建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-12 -</p>	 <p>(a) A-A 断面図</p> <p>(b) B-B 断面図</p> <p>第2-9図 緊急時対策所建屋の概略断面図</p> <p>- 03-別添1-3-12 -</p>	<p>記載の充実</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
<p>3. 強度評価方法</p> <p>3.1 評価対象部位</p> <p>建屋の評価対象部位は、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」のうち「4.2 許容限界」に従って、屋根、耐震壁及び鉄骨架構とする。</p> <p>各建屋において、鉛直荷重に抵抗する評価対象部位を以下のとおり選定する。屋根は、屋根スラブ及びそれを受ける二次部材（以下「梁」という。）について評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器 : 屋根（ドーム） ・原子炉周辺建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） ・制御建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） ・廃棄物処理建屋 : 屋根（屋根スラブ） ・緊急時対策所建屋 : 屋根（屋根スラブ） <p>また、各建屋において、水平荷重に抵抗する評価対象部位を以下のとおり選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器 : 耐震壁（胴） ・原子炉周辺建屋 : 耐震壁・鉄骨架構 ・制御建屋 : 耐震壁 ・廃棄物処理建屋 : 耐震壁 ・緊急時対策所建屋 : 耐震壁 <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-16 -</p>	<p>3. 強度評価方法</p> <p>3.1 評価対象部位</p> <p>建屋の評価対象部位は、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」のうち「4.2 許容限界」に従って、屋根、耐震壁及び鉄骨架構とする。</p> <p>各建屋において、鉛直荷重に抵抗する評価対象部位を以下のとおり選定する。屋根は、屋根スラブ及びそれを受ける梁について評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器 : 屋根（ドーム） ・原子炉周辺建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） ・制御建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） ・廃棄物処理建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） ・緊急時対策所建屋 : 屋根（屋根スラブ・梁） <p>また、各建屋において、水平荷重に抵抗する評価対象部位を以下のとおり選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器 : 耐震壁（胴） ・原子炉周辺建屋 : 耐震壁・鉄骨架構 ・制御建屋 : 耐震壁 ・廃棄物処理建屋 : 耐震壁 ・緊急時対策所建屋 : 耐震壁 <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-16 -</p>	<p>評価対象部位追加に伴う変更</p> <p>評価対象部位追加に伴う変更</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考																																		
<p>3.2 荷重及び荷重の組合せ 強度評価においては、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」のうち「4.1 荷重及び荷重の組合せ」に示している荷重及び荷重の組合せを用いる。</p> <p>3.2.1 荷重の設定 (1) 常時作用する荷重 (F_d) 常時作用する荷重は、自重及び積載荷重とする。各建屋に対する常時作用する荷重を第3-1表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第3-1表 常時作用する荷重</p> <table border="1" data-bbox="474 777 1009 1113"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>常時作用する荷重(N/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>ドーム</td> <td rowspan="10" style="background-color: #cccccc;"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉周辺建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">制御建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-17 -</p>			常時作用する荷重(N/m ²)	原子炉格納容器	ドーム		原子炉周辺建屋	屋根スラブ	梁	制御建屋	屋根スラブ	梁	廃棄物処理建屋	屋根スラブ	緊急時対策所建屋	屋根スラブ	<p>3.2 荷重及び荷重の組合せ 強度評価においては、別添1-1「火山への配慮が必要な施設の強度計算の方針」のうち「4.1 荷重及び荷重の組合せ」に示している荷重及び荷重の組合せを用いる。</p> <p>3.2.1 荷重の設定 (1) 常時作用する荷重 (F_d) 常時作用する荷重は、自重及び積載荷重とする。各建屋に対する常時作用する荷重を第3-1表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第3-1表 常時作用する荷重</p> <table border="1" data-bbox="1573 777 2107 1113"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>常時作用する荷重(N/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>ドーム</td> <td rowspan="10" style="background-color: #cccccc;"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉周辺建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">制御建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">廃棄物処理建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策所建屋</td> <td>屋根スラブ</td> </tr> <tr> <td>梁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：梁の自重は面荷重として考慮し、F_dに含む。 ※2：梁の自重は線荷重として別途考慮し、F_dには含めていない。 (廃棄物処理建屋は第3-16図、緊急時対策所建屋は第3-18図参照)</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-17 -</p>			常時作用する荷重(N/m ²)	原子炉格納容器	ドーム		原子炉周辺建屋	屋根スラブ	梁	制御建屋	屋根スラブ	梁	廃棄物処理建屋	屋根スラブ	梁	緊急時対策所建屋	屋根スラブ	梁	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p>記載の充実</p> <p>評価対象部位追加に伴う変更</p> <p>評価対象部位追加に伴う変更</p> <p>記載の充実</p>
		常時作用する荷重(N/m ²)																																		
原子炉格納容器	ドーム																																			
原子炉周辺建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			
制御建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			
廃棄物処理建屋	屋根スラブ																																			
緊急時対策所建屋	屋根スラブ																																			
			常時作用する荷重(N/m ²)																																	
原子炉格納容器	ドーム																																			
原子炉周辺建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			
制御建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			
廃棄物処理建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			
緊急時対策所建屋	屋根スラブ																																			
	梁																																			

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考																																																																																																																																																
<p style="text-align: center;">第3-6表 原子炉格納容器の風力係数及び受風面積 (NS方向、EW方向共通) ※1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号※2</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th rowspan="2">位置</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td rowspan="10" style="border: 2px solid black;"></td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>25.02</td><td>25.02</td></tr> <tr><td>9</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>166.68</td><td>166.68</td></tr> <tr><td>8</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>364.48</td><td>364.48</td></tr> <tr><td>7</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>359.12</td><td>359.12</td></tr> <tr><td>6</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>483.36</td><td>483.36</td></tr> <tr><td>5</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>456.00</td><td>456.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>155.04</td><td>155.04</td></tr> <tr><td>3</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>※1：原子炉格納容器は受風面積及び復元力特性がNS方向とEW方向で同一である。 ※2：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号※2	高さ E.L. (m)	位置	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	10		球形	0.539	-	25.02	25.02	9	球形	0.539	-	166.68	166.68	8	球形	0.539	-	364.48	364.48	7	球形	0.539	-	359.12	359.12	6	円筒形	0.539	-	483.36	483.36	5	円筒形	0.539	-	456.00	456.00	4	円筒形	0.539	-	155.04	155.04	3	円筒形	0.539	-	0	0	2	円筒形	0.539	-	0	0	1	円筒形	0.539	-	0	0	<p style="text-align: center;">第3-6表 原子炉格納容器の風力係数及び受風面積 (NS方向、EW方向共通) ※1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号※2</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th rowspan="2">位置</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td rowspan="10" style="border: 2px solid black;"></td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>25.02</td><td>25.02</td></tr> <tr><td>9</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>166.68</td><td>166.68</td></tr> <tr><td>8</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>364.48</td><td>364.48</td></tr> <tr><td>7</td><td>球形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>359.12</td><td>359.12</td></tr> <tr><td>6</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>483.36</td><td>483.36</td></tr> <tr><td>5</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>456.00</td><td>456.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>155.04</td><td>155.04</td></tr> <tr><td>3</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1</td><td>円筒形</td><td>0.539</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>※1：原子炉格納容器は受風面積及び復元力特性がNS方向とEW方向で同一である。 ※2：「3.4.2 耐震壁」の第3-19図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号※2	高さ E.L. (m)	位置	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	10		球形	0.539	-	25.02	25.02	9	球形	0.539	-	166.68	166.68	8	球形	0.539	-	364.48	364.48	7	球形	0.539	-	359.12	359.12	6	円筒形	0.539	-	483.36	483.36	5	円筒形	0.539	-	456.00	456.00	4	円筒形	0.539	-	155.04	155.04	3	円筒形	0.539	-	0	0	2	円筒形	0.539	-	0	0	1	円筒形	0.539	-	0	0	<p>記載の充実</p>
部材番号※2				高さ E.L. (m)	位置	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																										
	風上	風下	風上			風下																																																																																																																																												
10		球形	0.539	-	25.02	25.02																																																																																																																																												
9		球形	0.539	-	166.68	166.68																																																																																																																																												
8		球形	0.539	-	364.48	364.48																																																																																																																																												
7		球形	0.539	-	359.12	359.12																																																																																																																																												
6		円筒形	0.539	-	483.36	483.36																																																																																																																																												
5		円筒形	0.539	-	456.00	456.00																																																																																																																																												
4		円筒形	0.539	-	155.04	155.04																																																																																																																																												
3		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
2		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
1		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
部材番号※2	高さ E.L. (m)	位置	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																													
			風上	風下	風上	風下																																																																																																																																												
10		球形	0.539	-	25.02	25.02																																																																																																																																												
9		球形	0.539	-	166.68	166.68																																																																																																																																												
8		球形	0.539	-	364.48	364.48																																																																																																																																												
7		球形	0.539	-	359.12	359.12																																																																																																																																												
6		円筒形	0.539	-	483.36	483.36																																																																																																																																												
5		円筒形	0.539	-	456.00	456.00																																																																																																																																												
4		円筒形	0.539	-	155.04	155.04																																																																																																																																												
3		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
2		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
1		円筒形	0.539	-	0	0																																																																																																																																												
- 03-別添1-3-21 -	- 03-別添1-3-21 -																																																																																																																																																	

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考																																																																																																																																																																																								
<p style="text-align: center;">第3-7表 原子炉周辺建屋の風力係数及び受風面積 (2/2)</p> <p style="text-align: center;">(3) EW方向 (E→W)</p> <table border="1" data-bbox="424 541 1056 835"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数 C</th><th colspan="2">受風面積 A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>33</td><td rowspan="8">[REDACTED]</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>195.82</td><td>195.82</td></tr><tr><td>32(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>284.19</td><td>604.58</td></tr><tr><td>31(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>0</td><td>331.50</td></tr><tr><td>30(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>205.71</td><td>205.71</td></tr><tr><td>29(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>295.10</td><td>0</td></tr><tr><td>28</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>831.14</td><td>791.06</td></tr><tr><td>27</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>890.00</td><td>890.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(4) EW方向 (W→E)</p> <table border="1" data-bbox="424 928 1056 1222"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数 C</th><th colspan="2">受風面積 A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>33</td><td rowspan="8">[REDACTED]</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>195.82</td><td>195.82</td></tr><tr><td>32(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>604.58</td><td>284.19</td></tr><tr><td>31(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>331.50</td><td>0</td></tr><tr><td>30(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>205.71</td><td>205.71</td></tr><tr><td>29(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>0</td><td>295.10</td></tr><tr><td>28</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>791.06</td><td>831.14</td></tr><tr><td>27</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>890.00</td><td>890.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82	32(S)	0.8	-0.4	284.19	604.58	31(S)	0.8	-0.4	0	331.50	30(S)	0.8	-0.4	205.71	205.71	29(S)	0.8	-0.4	295.10	0	28	0.8	-0.4	831.14	791.06	27	0.8	-0.4	890.00	890.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82	32(S)	0.8	-0.4	604.58	284.19	31(S)	0.8	-0.4	331.50	0	30(S)	0.8	-0.4	205.71	205.71	29(S)	0.8	-0.4	0	295.10	28	0.8	-0.4	791.06	831.14	27	0.8	-0.4	890.00	890.00	<p style="text-align: center;">第3-7表 原子炉周辺建屋の風力係数及び受風面積 (2/2)</p> <p style="text-align: center;">(3) EW方向 (E→W)</p> <table border="1" data-bbox="1507 516 2169 831"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数 C</th><th colspan="2">受風面積 A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>33</td><td rowspan="8">[REDACTED]</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>195.82</td><td>195.82</td></tr><tr><td>32(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>284.19</td><td>604.58</td></tr><tr><td>31(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>0</td><td>331.50</td></tr><tr><td>30(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>205.71</td><td>205.71</td></tr><tr><td>29(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>295.10</td><td>0</td></tr><tr><td>28</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>831.14</td><td>791.06</td></tr><tr><td>27</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>890.00</td><td>890.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-19図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(4) EW方向 (W→E)</p> <table border="1" data-bbox="1507 924 2169 1239"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数 C</th><th colspan="2">受風面積 A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>33</td><td rowspan="8">[REDACTED]</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>195.82</td><td>195.82</td></tr><tr><td>32(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>604.58</td><td>284.19</td></tr><tr><td>31(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>331.50</td><td>0</td></tr><tr><td>30(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>205.71</td><td>205.71</td></tr><tr><td>29(S)</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>0</td><td>295.10</td></tr><tr><td>28</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>791.06</td><td>831.14</td></tr><tr><td>27</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>890.00</td><td>890.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-19図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82	32(S)	0.8	-0.4	284.19	604.58	31(S)	0.8	-0.4	0	331.50	30(S)	0.8	-0.4	205.71	205.71	29(S)	0.8	-0.4	295.10	0	28	0.8	-0.4	831.14	791.06	27	0.8	-0.4	890.00	890.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82	32(S)	0.8	-0.4	604.58	284.19	31(S)	0.8	-0.4	331.50	0	30(S)	0.8	-0.4	205.71	205.71	29(S)	0.8	-0.4	0	295.10	28	0.8	-0.4	791.06	831.14	27	0.8	-0.4	890.00	890.00	<p style="text-align: center;">記載の充実</p> <p style="text-align: center;">記載の充実</p>
部材番号*			高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																				
	風上	風下		風上	風下																																																																																																																																																																																					
33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82																																																																																																																																																																																					
32(S)		0.8	-0.4	284.19	604.58																																																																																																																																																																																					
31(S)		0.8	-0.4	0	331.50																																																																																																																																																																																					
30(S)		0.8	-0.4	205.71	205.71																																																																																																																																																																																					
29(S)		0.8	-0.4	295.10	0																																																																																																																																																																																					
28		0.8	-0.4	831.14	791.06																																																																																																																																																																																					
27		0.8	-0.4	890.00	890.00																																																																																																																																																																																					
部材番号*		高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																					
	風上		風下	風上	風下																																																																																																																																																																																					
33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82																																																																																																																																																																																					
32(S)		0.8	-0.4	604.58	284.19																																																																																																																																																																																					
31(S)		0.8	-0.4	331.50	0																																																																																																																																																																																					
30(S)		0.8	-0.4	205.71	205.71																																																																																																																																																																																					
29(S)		0.8	-0.4	0	295.10																																																																																																																																																																																					
28		0.8	-0.4	791.06	831.14																																																																																																																																																																																					
27		0.8	-0.4	890.00	890.00																																																																																																																																																																																					
部材番号*		高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																					
	風上		風下	風上	風下																																																																																																																																																																																					
33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82																																																																																																																																																																																					
32(S)		0.8	-0.4	284.19	604.58																																																																																																																																																																																					
31(S)		0.8	-0.4	0	331.50																																																																																																																																																																																					
30(S)		0.8	-0.4	205.71	205.71																																																																																																																																																																																					
29(S)		0.8	-0.4	295.10	0																																																																																																																																																																																					
28		0.8	-0.4	831.14	791.06																																																																																																																																																																																					
27		0.8	-0.4	890.00	890.00																																																																																																																																																																																					
部材番号*		高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																					
	風上		風下	風上	風下																																																																																																																																																																																					
33	[REDACTED]	0.8	-0.4	195.82	195.82																																																																																																																																																																																					
32(S)		0.8	-0.4	604.58	284.19																																																																																																																																																																																					
31(S)		0.8	-0.4	331.50	0																																																																																																																																																																																					
30(S)		0.8	-0.4	205.71	205.71																																																																																																																																																																																					
29(S)		0.8	-0.4	0	295.10																																																																																																																																																																																					
28		0.8	-0.4	791.06	831.14																																																																																																																																																																																					
27		0.8	-0.4	890.00	890.00																																																																																																																																																																																					

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考																																																																																																																																																
<p>第3-8表 制御建屋の風力係数及び受風面積</p> <p>(1) NS方向</p> <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さE.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数C</th><th colspan="2">受風面積A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td rowspan="5"></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>500.08</td><td>500.08</td></tr><tr><td>4</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>268.80</td><td>268.80</td></tr><tr><td>3</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>308.00</td><td>308.00</td></tr><tr><td>2</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>240.80</td><td>240.80</td></tr><tr><td>1</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>252.00</td><td>252.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」<u>1</u>に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p>(2) EW方向</p> <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さE.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数C</th><th colspan="2">受風面積A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td rowspan="5"></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>499.63</td><td>499.63</td></tr><tr><td>4</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>268.56</td><td>268.56</td></tr><tr><td>3</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>307.73</td><td>307.73</td></tr><tr><td>2</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>240.59</td><td>240.59</td></tr><tr><td>1</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>251.78</td><td>251.78</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」<u>1</u>に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)		風上	風下	風上	風下	5		0.8	-0.4	500.08	500.08	4	0.8	-0.4	268.80	268.80	3	0.8	-0.4	308.00	308.00	2	0.8	-0.4	240.80	240.80	1	0.8	-0.4	252.00	252.00	部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)		風上	風下	風上	風下	5		0.8	-0.4	499.63	499.63	4	0.8	-0.4	268.56	268.56	3	0.8	-0.4	307.73	307.73	2	0.8	-0.4	240.59	240.59	1	0.8	-0.4	251.78	251.78	<p>第3-8表 制御建屋の風力係数及び受風面積</p> <p>(1) NS方向</p> <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さE.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数C</th><th colspan="2">受風面積A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td rowspan="5"></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>500.08</td><td>500.08</td></tr><tr><td>4</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>268.80</td><td>268.80</td></tr><tr><td>3</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>308.00</td><td>308.00</td></tr><tr><td>2</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>240.80</td><td>240.80</td></tr><tr><td>1</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>252.00</td><td>252.00</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-20図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p>(2) EW方向</p> <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">部材番号*</th><th rowspan="2">高さE.L. (m)</th><th colspan="2">風力係数C</th><th colspan="2">受風面積A (m²)</th></tr><tr><th>風上</th><th>風下</th><th>風上</th><th>風下</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td rowspan="5"></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>499.63</td><td>499.63</td></tr><tr><td>4</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>268.56</td><td>268.56</td></tr><tr><td>3</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>307.73</td><td>307.73</td></tr><tr><td>2</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>240.59</td><td>240.59</td></tr><tr><td>1</td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>251.78</td><td>251.78</td></tr></tbody></table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-20図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)		風上	風下	風上	風下	5		0.8	-0.4	500.08	500.08	4	0.8	-0.4	268.80	268.80	3	0.8	-0.4	308.00	308.00	2	0.8	-0.4	240.80	240.80	1	0.8	-0.4	252.00	252.00	部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)		風上	風下	風上	風下	5		0.8	-0.4	499.63	499.63	4	0.8	-0.4	268.56	268.56	3	0.8	-0.4	307.73	307.73	2	0.8	-0.4	240.59	240.59	1	0.8	-0.4	251.78	251.78	<p>記載の充実</p> <p>記載の充実</p>
部材番号*			高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)																																																																																																																																												
	風上	風下		風上	風下																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	500.08	500.08																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	268.80	268.80																																																																																																																																													
3		0.8	-0.4	308.00	308.00																																																																																																																																													
2		0.8	-0.4	240.80	240.80																																																																																																																																													
1		0.8	-0.4	252.00	252.00																																																																																																																																													
部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	499.63	499.63																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	268.56	268.56																																																																																																																																													
3		0.8	-0.4	307.73	307.73																																																																																																																																													
2		0.8	-0.4	240.59	240.59																																																																																																																																													
1		0.8	-0.4	251.78	251.78																																																																																																																																													
部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	500.08	500.08																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	268.80	268.80																																																																																																																																													
3		0.8	-0.4	308.00	308.00																																																																																																																																													
2		0.8	-0.4	240.80	240.80																																																																																																																																													
1		0.8	-0.4	252.00	252.00																																																																																																																																													
部材番号*	高さE.L. (m)	風力係数C		受風面積A (m ²)																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	499.63	499.63																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	268.56	268.56																																																																																																																																													
3		0.8	-0.4	307.73	307.73																																																																																																																																													
2		0.8	-0.4	240.59	240.59																																																																																																																																													
1		0.8	-0.4	251.78	251.78																																																																																																																																													

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考																																																																																																																																																																																																																																																
<p style="text-align: center;">第3-9表 廃棄物処理建屋の風力係数及び受風面積</p> <p style="text-align: center;">(1) NS方向 (N→S)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>197.37</td><td>197.37</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>461.15</td><td>477.92</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>459.20</td><td>431.36</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>476.00</td><td>476.00</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>420.00</td><td>420.00</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(2) NS方向 (S→N)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>197.37</td><td>197.37</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>477.92</td><td>461.15</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>431.36</td><td>459.20</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>476.00</td><td>476.00</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>420.00</td><td>420.00</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(3) EW方向</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>396.27</td><td>396.27</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>140.08</td><td>140.08</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>520.34</td><td>453.19</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>441.58</td><td>441.58</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>389.63</td><td>389.63</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	197.37	197.37	7		0.8	-0.4	461.15	477.92	6		0.8	-0.4	459.20	431.36	5		0.8	-0.4	476.00	476.00	4		0.8	-0.4	420.00	420.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	197.37	197.37	7		0.8	-0.4	477.92	461.15	6		0.8	-0.4	431.36	459.20	5		0.8	-0.4	476.00	476.00	4		0.8	-0.4	420.00	420.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	396.27	396.27	7		0.8	-0.4	140.08	140.08	6		0.8	-0.4	520.34	453.19	5		0.8	-0.4	441.58	441.58	4		0.8	-0.4	389.63	389.63	<p style="text-align: center;">第3-9表 廃棄物処理建屋の風力係数及び受風面積</p> <p style="text-align: center;">(1) NS方向 (N→S)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>197.37</td><td>197.37</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>461.15</td><td>477.92</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>459.20</td><td>431.36</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>476.00</td><td>476.00</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>420.00</td><td>420.00</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-21図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(2) NS方向 (S→N)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>197.37</td><td>197.37</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>477.92</td><td>461.15</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>431.36</td><td>459.20</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>476.00</td><td>476.00</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>420.00</td><td>420.00</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-21図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(3) EW方向</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>396.27</td><td>396.27</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>140.08</td><td>140.08</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>520.34</td><td>453.19</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>441.58</td><td>441.58</td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>0.8</td><td>-0.4</td><td>389.63</td><td>389.63</td></tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-21図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	197.37	197.37	7		0.8	-0.4	461.15	477.92	6		0.8	-0.4	459.20	431.36	5		0.8	-0.4	476.00	476.00	4		0.8	-0.4	420.00	420.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	197.37	197.37	7		0.8	-0.4	477.92	461.15	6		0.8	-0.4	431.36	459.20	5		0.8	-0.4	476.00	476.00	4		0.8	-0.4	420.00	420.00	部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	8		0.8	-0.4	396.27	396.27	7		0.8	-0.4	140.08	140.08	6		0.8	-0.4	520.34	453.19	5		0.8	-0.4	441.58	441.58	4		0.8	-0.4	389.63	389.63	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">記載の充実</p> <p style="text-align: center;">記載の充実</p> <p style="text-align: center;">記載の充実</p>
部材番号*			高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																												
	風上	風下		風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	197.37	197.37																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	461.15	477.92																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	459.20	431.36																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	476.00	476.00																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	420.00	420.00																																																																																																																																																																																																																																													
部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	197.37	197.37																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	477.92	461.15																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	431.36	459.20																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	476.00	476.00																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	420.00	420.00																																																																																																																																																																																																																																													
部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	396.27	396.27																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	140.08	140.08																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	520.34	453.19																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	441.58	441.58																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	389.63	389.63																																																																																																																																																																																																																																													
部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	197.37	197.37																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	461.15	477.92																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	459.20	431.36																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	476.00	476.00																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	420.00	420.00																																																																																																																																																																																																																																													
部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	197.37	197.37																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	477.92	461.15																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	431.36	459.20																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	476.00	476.00																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	420.00	420.00																																																																																																																																																																																																																																													
部材番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																																																																																																																																																																														
		風上	風下	風上	風下																																																																																																																																																																																																																																													
8		0.8	-0.4	396.27	396.27																																																																																																																																																																																																																																													
7		0.8	-0.4	140.08	140.08																																																																																																																																																																																																																																													
6		0.8	-0.4	520.34	453.19																																																																																																																																																																																																																																													
5		0.8	-0.4	441.58	441.58																																																																																																																																																																																																																																													
4		0.8	-0.4	389.63	389.63																																																																																																																																																																																																																																													

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考																																																																																								
<p style="text-align: center;">第3-10表 緊急時対策所建屋の風力係数及び受風面積</p> <p style="text-align: center;">(1) NS方向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材 番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>123.2</td> <td>123.2</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>105.8</td> <td>105.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(2) EW方向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材 番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>136.4</td> <td>136.4</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>112.0</td> <td>112.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	①		0.816	-0.4	123.2	123.2	②		0.816	-0.4	105.8	105.8	部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	①		0.816	-0.4	136.4	136.4	②		0.816	-0.4	112.0	112.0	<p style="text-align: center;">第3-10表 緊急時対策所建屋の風力係数及び受風面積</p> <p style="text-align: center;">(1) NS方向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材 番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>123.2</td> <td>123.2</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>105.8</td> <td>105.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-22図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p> <p style="text-align: center;">(2) EW方向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材 番号*</th> <th rowspan="2">高さ E.L. (m)</th> <th colspan="2">風力係数 C</th> <th colspan="2">受風面積 A (m²)</th> </tr> <tr> <th>風上</th> <th>風下</th> <th>風上</th> <th>風下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>136.4</td> <td>136.4</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td>0.816</td> <td>-0.4</td> <td>112.0</td> <td>112.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：「3.4.2 耐震壁」の第3-22図に示す質点系モデルの部材番号を示す。</p>	部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	①		0.816	-0.4	123.2	123.2	②		0.816	-0.4	105.8	105.8	部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)		風上	風下	風上	風下	①		0.816	-0.4	136.4	136.4	②		0.816	-0.4	112.0	112.0	<p style="text-align: center;">記載の充実</p> <p style="text-align: center;">記載の充実</p>
部材 番号*			高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																				
	風上	風下		風上	風下																																																																																					
①		0.816	-0.4	123.2	123.2																																																																																					
②		0.816	-0.4	105.8	105.8																																																																																					
部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																						
		風上	風下	風上	風下																																																																																					
①		0.816	-0.4	136.4	136.4																																																																																					
②		0.816	-0.4	112.0	112.0																																																																																					
部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																						
		風上	風下	風上	風下																																																																																					
①		0.816	-0.4	123.2	123.2																																																																																					
②		0.816	-0.4	105.8	105.8																																																																																					
部材 番号*	高さ E.L. (m)	風力係数 C		受風面積 A (m ²)																																																																																						
		風上	風下	風上	風下																																																																																					
①		0.816	-0.4	136.4	136.4																																																																																					
②		0.816	-0.4	112.0	112.0																																																																																					
- 03-別添1-3-26 -	- 03-別添1-3-26 -																																																																																									

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前		変更後		備考																													
<p>第3-15表 廃棄物処理建屋の許容限界</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要求機能</th> <th>機能設計上の性能目標</th> <th>部位</th> <th>機能維持のための考え方</th> <th>許容限界(評価基準値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること</td> <td>屋根スラブ</td> <td>部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td>「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td>耐震壁</td> <td>最大せん断ひずみか構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td>最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ)^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、評価基準値はさらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。</p>		要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	耐震壁	最大せん断ひずみか構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}	<p>第3-15表 廃棄物処理建屋の許容限界</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要求機能</th> <th>機能設計上の性能目標</th> <th>部位</th> <th>機能維持のための考え方</th> <th>許容限界(評価基準値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること</td> <td>屋根スラブ</td> <td>部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td>「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td>RC梁</td> <td></td> <td>「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度)^{※1}</td> </tr> <tr> <td>耐震壁</td> <td>最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認</td> <td>最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ)^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、評価基準値はさらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。</p>		要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	RC梁		「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}	耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}	<p>評価対象部位追加に伴う変更</p>
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)																													
-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																													
		耐震壁	最大せん断ひずみか構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}																													
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)																													
-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																													
		RC梁		「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ^{※1}																													
		耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10^{-3} (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ^{※1}																													
- 03-別添1-3-31 -		- 03-別添1-3-31 -																															

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前					変更後					備考
第3-16表 緊急時対策所建屋の許容限界					第3-16表 緊急時対策所建屋の許容限界					評価対象部位追加に伴う変更
要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	要求機能	機能設計上の性能目標	部位	機能維持のための考え方	許容限界(評価基準値)	
-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ※3	-	内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ※3	
		耐震壁	最大せん断ひずみか構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10 ⁻³ (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ※3			RC梁	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ※3		
※1 遮蔽性	遮蔽体の損傷により遮蔽性を損なわないこと	屋根スラブ	部材に生じる応力が遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ※3	※1 遮蔽性	遮蔽体の損傷により遮蔽性を損なわないこと	耐震壁	最大せん断ひずみが構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 4.0×10 ⁻³ (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ※3	
※2 気密性	換気性能とあいまって気密性を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」に基づく短期許容応力度	※2 気密性	換気性能とあいまって気密性を維持すること	屋根スラブ	部材に生じる応力が遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	「RC-N 規準」等における終局耐力(短期許容応力度) ※3	
		耐震壁	最大せん断ひずみが気密性を維持するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 2.0×10 ⁻³ (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ※4			耐震壁	最大せん断ひずみが遮蔽性を維持するための許容限界を超えないことを確認	最大せん断ひずみ 2.0×10 ⁻³ (せん断スケルトンカーブの第1折点のひずみ) ※4	
※1: 緊急時対策所建屋の一部を構成している緊急時対策所遮蔽を対象とする。 ※2: 緊急時対策所は、居住性の評価を行っており、緊急時制御室換気設備の処理対象となるバウンダリを定めていることから、気密性の維持についても確認を行う。 ※3: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、さらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。 ※4: 内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持するための評価基準値をせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみとすることから、評価基準値としてせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみを適用する。					※1: 緊急時対策所建屋の一部を構成している緊急時対策所遮蔽を対象とする。 ※2: 緊急時対策所は、居住性の評価を行っており、緊急時制御室換気設備の処理対象となるバウンダリを定めていることから、気密性の維持についても確認を行う。 ※3: 許容限界は終局強度に対し妥当な安全余裕を有したものと設定することとし、さらなる安全余裕を考慮して短期許容応力度等とする。 ※4: 内包する防護すべき施設に降下火砕物を堆積させない機能を維持するための評価基準値をせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみとすることから、評価基準値としてせん断スケルトンカーブの第1折点のひずみを適用する。					
- 03-別添1-3-32 -					- 03-別添1-3-32 -					

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考																																																																																																																																																						
<p style="text-align: center;">第3-17表 鋼材の許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">F値 (N/mm²)</th> <th colspan="3">短期</th> </tr> <tr> <th>引張 (N/mm²)</th> <th>圧縮・曲げ (N/mm²)</th> <th>せん断 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>SS400</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>SS400</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>135</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第3-18表 コンクリートの許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">設計基準強度 (N/mm²)</th> <th colspan="2">短期</th> </tr> <tr> <th>圧縮 (N/mm²)</th> <th>せん断 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>44.1</td> <td>29.4</td> <td>1.39</td> </tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所建屋</td> <td>30.0</td> <td>20.0</td> <td>1.18</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第3-19表 鉄筋の許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="2">短期</th> </tr> <tr> <th>引張・圧縮 (N/mm²)</th> <th>面外せん断補強 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>SD390</td> <td>390</td> <td>390</td> </tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所建屋</td> <td>SD390</td> <td>390</td> <td>390</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	種類	F値 (N/mm ²)	短期			引張 (N/mm ²)	圧縮・曲げ (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)	原子炉周辺建屋	SS400	235	235	235	135	制御建屋	SS400	235	235	235	135	建屋	設計基準強度 (N/mm ²)	短期		圧縮 (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)	原子炉格納容器	44.1	29.4	1.39	原子炉周辺建屋	29.4	19.6	1.17	制御建屋	29.4	19.6	1.17	廃棄物処理建屋	29.4	19.6	1.17	緊急時対策所建屋	30.0	20.0	1.18	建屋	種類	短期		引張・圧縮 (N/mm ²)	面外せん断補強 (N/mm ²)	原子炉格納容器	SD390	390	390	原子炉周辺建屋	SD345	345	345	制御建屋	SD345	345	345	廃棄物処理建屋	SD345	345	345	緊急時対策所建屋	SD390	390	390	<p style="text-align: center;">第3-17表 鋼材の許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">F値 (N/mm²)</th> <th colspan="3">短期</th> </tr> <tr> <th>引張 (N/mm²)</th> <th>圧縮・曲げ (N/mm²)</th> <th>せん断 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>SS400</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>SS400</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>235</td> <td>135</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第3-18表 コンクリートの許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">設計基準強度 (N/mm²)</th> <th colspan="2">短期</th> </tr> <tr> <th>圧縮 (N/mm²)</th> <th>せん断 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>44.1</td> <td>29.4</td> <td>1.39</td> </tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>29.4</td> <td>19.6</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所建屋</td> <td>30.0</td> <td>20.0</td> <td>1.18</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第3-19表 鉄筋の許容応力</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="2">短期</th> </tr> <tr> <th>引張・圧縮 (N/mm²)</th> <th>面外せん断補強 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器</td> <td>SD390</td> <td>390</td> <td>390</td> </tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所建屋</td> <td>SD345</td> <td>345</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td></td> <td>SD390</td> <td>390</td> <td>390</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	種類	F値 (N/mm ²)	短期			引張 (N/mm ²)	圧縮・曲げ (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)	原子炉周辺建屋	SS400	235	235	235	135	制御建屋	SS400	235	235	235	135	建屋	設計基準強度 (N/mm ²)	短期		圧縮 (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)	原子炉格納容器	44.1	29.4	1.39	原子炉周辺建屋	29.4	19.6	1.17	制御建屋	29.4	19.6	1.17	廃棄物処理建屋	29.4	19.6	1.17	緊急時対策所建屋	30.0	20.0	1.18	建屋	種類	短期		引張・圧縮 (N/mm ²)	面外せん断補強 (N/mm ²)	原子炉格納容器	SD390	390	390	原子炉周辺建屋	SD345	345	345	制御建屋	SD345	345	345	廃棄物処理建屋	SD345	345	345	緊急時対策所建屋	SD345	345	345		SD390	390	390	<p>評価対象部位追加に伴う変更</p>
建屋				種類	F値 (N/mm ²)	短期																																																																																																																																																		
	引張 (N/mm ²)	圧縮・曲げ (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)																																																																																																																																																					
原子炉周辺建屋	SS400	235	235	235	135																																																																																																																																																			
制御建屋	SS400	235	235	235	135																																																																																																																																																			
建屋	設計基準強度 (N/mm ²)	短期																																																																																																																																																						
		圧縮 (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)																																																																																																																																																					
原子炉格納容器	44.1	29.4	1.39																																																																																																																																																					
原子炉周辺建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
制御建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
廃棄物処理建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
緊急時対策所建屋	30.0	20.0	1.18																																																																																																																																																					
建屋	種類	短期																																																																																																																																																						
		引張・圧縮 (N/mm ²)	面外せん断補強 (N/mm ²)																																																																																																																																																					
原子炉格納容器	SD390	390	390																																																																																																																																																					
原子炉周辺建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
制御建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
廃棄物処理建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
緊急時対策所建屋	SD390	390	390																																																																																																																																																					
建屋	種類	F値 (N/mm ²)	短期																																																																																																																																																					
			引張 (N/mm ²)	圧縮・曲げ (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)																																																																																																																																																			
原子炉周辺建屋	SS400	235	235	235	135																																																																																																																																																			
制御建屋	SS400	235	235	235	135																																																																																																																																																			
建屋	設計基準強度 (N/mm ²)	短期																																																																																																																																																						
		圧縮 (N/mm ²)	せん断 (N/mm ²)																																																																																																																																																					
原子炉格納容器	44.1	29.4	1.39																																																																																																																																																					
原子炉周辺建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
制御建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
廃棄物処理建屋	29.4	19.6	1.17																																																																																																																																																					
緊急時対策所建屋	30.0	20.0	1.18																																																																																																																																																					
建屋	種類	短期																																																																																																																																																						
		引張・圧縮 (N/mm ²)	面外せん断補強 (N/mm ²)																																																																																																																																																					
原子炉格納容器	SD390	390	390																																																																																																																																																					
原子炉周辺建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
制御建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
廃棄物処理建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
緊急時対策所建屋	SD345	345	345																																																																																																																																																					
	SD390	390	390																																																																																																																																																					
- 03-別添1-3-33 -	- 03-別添1-3-33 -																																																																																																																																																							

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
<p>(2) 屋根スラブ及び梁 曲げモーメント及び面外せん断力を算定し、部材に生じる応力が第3-12表～第3-16表の評価基準値（短期許容応力度）を超えないことを確認する。</p> <p>a. 評価部材 原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋の屋根の評価部材は屋根スラブ及び梁を対象とする。なお、評価結果については、降下火砕物等堆積時に発生する応力を考慮した際に、<u>評価基準値に対して、発生する応力等の割合が最も大きくなる部材を選定して示す。選定した部材の位置を第3-3図～第3-8図に示す。</u></p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-39 -</p>	<p>(2) 屋根スラブ及び梁 曲げモーメント及び面外せん断力を算定し、部材に生じる応力が第3-12表～第3-16表の評価基準値（短期許容応力度）を超えないことを確認する。</p> <p>a. 評価部材 原子炉周辺建屋、制御建屋、廃棄物処理建屋及び緊急時対策所建屋の屋根の評価部材は屋根スラブ及び梁を対象とする。なお、評価結果については、降下火砕物等堆積時に発生する応力を考慮した際に、<u>屋根スラブ及び梁の全ての部材のうち、評価基準値に対して発生する応力等の割合が最も大きくなる部材について、それぞれ記載する部材の位置を第3-3図～第3-10図に示す。</u></p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-39 -</p>	<p>記載の適正化</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
<div data-bbox="329 459 1175 974" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="498 976 982 1003">第3-5図 制御建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> <div data-bbox="329 1003 1175 1497" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="531 1503 946 1530">第3-6図 制御建屋 梁の評価を記載する部材の位置</p> <p data-bbox="641 1621 798 1648">- 03-別添1-3-41 -</p>	<div data-bbox="1415 443 2261 974" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1584 976 2089 1003">第3-5図 制御建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> <div data-bbox="1415 1010 2261 1526" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1617 1528 2056 1556">第3-6図 制御建屋 梁の評価を記載する部材の位置</p> <p data-bbox="1739 1652 1896 1680">- 03-別添1-3-41 -</p>	<p data-bbox="2368 684 2712 720">図面の明確化（寸法追記）</p> <p data-bbox="2368 1182 2763 1218">評価対象部位追加に伴う変更</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
<div data-bbox="320 457 1130 1003" data-label="Image"> <p data-bbox="468 1010 1003 1035">第3-7図 廃棄物処理建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> </div> <div data-bbox="320 1052 1130 1570" data-label="Image"> <p data-bbox="468 1577 1003 1602">第3-8図 廃棄物処理建屋 梁の評価を記載する部材の位置</p> </div> <p data-bbox="647 1623 795 1648">- 03-別添1-3-42 -</p>	<div data-bbox="1439 447 2249 982" data-label="Image"> <p data-bbox="1558 978 2122 1003">第3-7図 廃棄物処理建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> </div> <div data-bbox="1439 999 2249 1570" data-label="Image"> <p data-bbox="1587 1528 2092 1554">第3-8図 廃棄物処理建屋 梁の評価を記載する部材の位置</p> </div> <p data-bbox="1745 1654 1893 1680">- 03-別添1-3-42 -</p>	<p data-bbox="2377 688 2694 714">図面の明確化（寸法追記）</p> <p data-bbox="2377 1241 2822 1266">評価対象部位追加に伴う図表の追加</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考
<div data-bbox="359 464 1127 976" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="463 976 1012 1003" data-label="Caption"> <p>第3-8図 緊急時対策所建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> </div> <div data-bbox="359 1043 1127 1556" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="638 1619 798 1648" data-label="Page-Footer"> <p>- 03-別添1-3-43 -</p> </div>	<div data-bbox="1433 436 2243 976" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1552 976 2131 1003" data-label="Caption"> <p>第3-9図 緊急時対策所建屋 屋根スラブの評価を記載する部材の位置</p> </div> <div data-bbox="1433 1031 2243 1570" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1581 1528 2101 1556" data-label="Caption"> <p>第3-10図 緊急時対策所建屋 梁の評価を記載する部材の位置</p> </div> <div data-bbox="1736 1650 1902 1680" data-label="Page-Footer"> <p>- 03-別添1-3-43 -</p> </div>	<div data-bbox="2359 684 2715 722" data-label="Text"> <p>図面の明確化（寸法追記）</p> </div> <div data-bbox="2359 982 2798 1020" data-label="Text"> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p> </div> <div data-bbox="2359 1232 2858 1270" data-label="Text"> <p>評価対象部位追加に伴う図表の追加</p> </div>

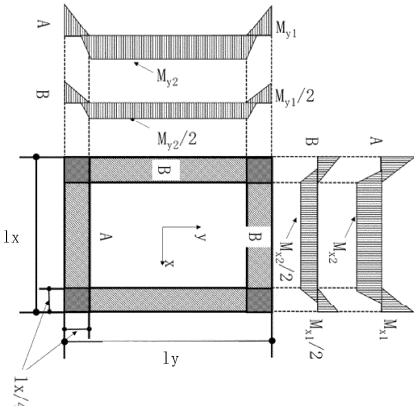
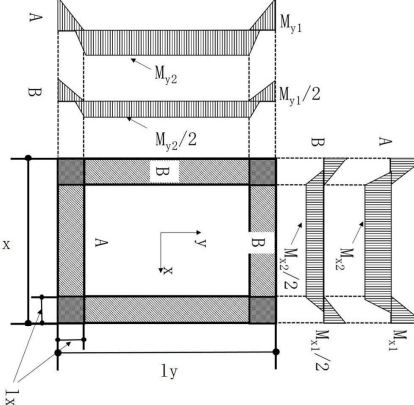
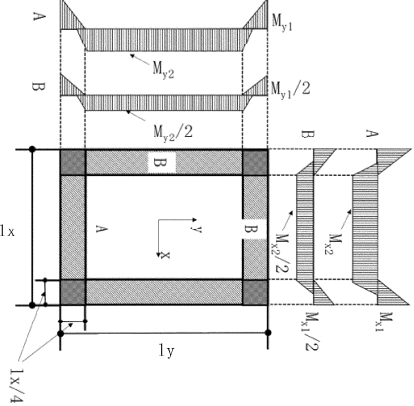
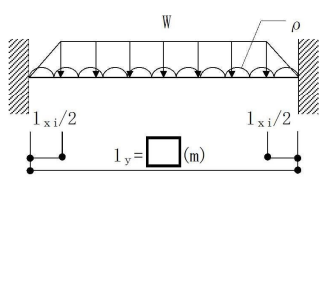
【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
<p>b. 応力評価モデル</p> <p>前項において、評価結果を記載する部材として選定した各建屋の屋根スラブ及び梁の応力評価モデル図を第3-9図～第3-14図に示す。また、部材の評価条件を第3-20表～第3-25表に示す。</p> <div data-bbox="409 619 1092 808"> <p>・ 端部モーメント $M_E = (W \cdot l^2) / 8$ ・ 端部せん断力 $Q_E = (W \cdot l) \cdot 5/8$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> </div> <p>第3-9図 原子炉周辺建屋 屋根スラブの評価モデル図</p> <div data-bbox="356 976 1092 1197"> <p>・ 中央モーメント $M_C = W \cdot (3l^2 - 4a^2) / 24$ ・ 端部せん断力 $Q_E = W \cdot (l - a) / 2$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) a : 支配幅 (mm)</p> </div> <p>第3-10図 原子炉周辺建屋 梁の評価モデル図</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-44 -</p>	<p>b. 応力評価モデル</p> <p>前項において、評価結果を記載する部材として選定した各建屋の屋根スラブ及び梁の応力評価モデル図を第3-11図～第3-18図に示す。また、部材の評価条件を第3-20表～第3-27表に示す。</p> <div data-bbox="1573 619 2211 808"> <p>・ 端部モーメント $M_E = (W \cdot l^2) / 8$ ・ 端部せん断力 $Q_E = (W \cdot l) \cdot 5/8$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> </div> <p>第3-11図 原子炉周辺建屋 屋根スラブの評価モデル図</p> <div data-bbox="1537 877 2240 1102"> <p>・ 中央部モーメント $M_C = \sum_{i=1}^2 (W \cdot a_i \cdot (3l^2 - 4a_i^2) / 24)$ ・ 端部せん断力 $Q_E = \sum_{i=1}^2 (W \cdot a_i \cdot (l - a_i) / 2)$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) a_i : 片側支配幅 (m) i : 梁に隣接する部材の番号 (i=1, 2)</p> </div> <p>第3-12図 原子炉周辺建屋 梁の評価モデル図</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-44 -</p>	<p>図表追加に伴う図表番号の変更</p> <p>記載の適正化</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p> <p>記載の適正化</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p>

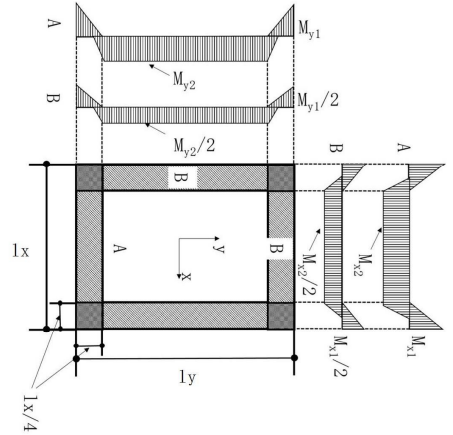
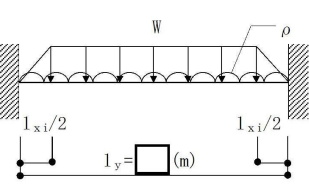
【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
<div data-bbox="409 577 676 693" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="718 577 875 667" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_E = (W \cdot l^2) / 12$ ・端部せん断力 $Q_E = (W \cdot l) / 2$ </div> <div data-bbox="747 693 1015 720" data-label="Text"> <p>W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> </div> <div data-bbox="540 758 934 787" data-label="Caption"> <p>第3-11図 制御建屋 屋根スラブの評価モデル図</p> </div> <div data-bbox="305 852 1110 1125" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="747 919 943 1010" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・中央モーメント $M_C = W \cdot (3l^2 - 4a^2) / 24$ ・端部せん断力 $Q_E = W \cdot (l - a) / 2$ </div> <div data-bbox="786 1024 1050 1073" data-label="Text"> <p>W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) a : 支配幅 (mm)</p> </div> <div data-bbox="569 1129 902 1159" data-label="Caption"> <p>第3-12図 制御建屋 梁の評価モデル図</p> </div> <div data-bbox="638 1619 798 1646" data-label="Page-Footer"> <p>- 03-別添1-3-45 -</p> </div>	<div data-bbox="1567 468 1869 625" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="1875 472 2041 577" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_E = (W \cdot l^2) / 12$ ・端部せん断力 $Q_E = (W \cdot l) / 2$ </div> <div data-bbox="1905 598 2181 630" data-label="Text"> <p>W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> </div> <div data-bbox="1632 646 2047 676" data-label="Caption"> <p>第3-13図 制御建屋 屋根スラブの評価モデル図</p> </div> <div data-bbox="1466 714 2270 1003" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="1875 730 2160 840" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・中央部モーメント $M_C = \sum_{i=1}^2 \{ (\lambda_i / 2 + 1/24) \cdot W \cdot l_x^3 \}$ ・端部せん断力 $Q_E = \sum_{i=1}^2 \{ (\lambda_i / 2 + 1/8) \cdot W \cdot l_x^2 \}$ </div> <div data-bbox="1816 856 2211 987" data-label="Text"> <p>W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) (単位:m) λ_i : $l_{y i} / l_x$ l_x : 梁間寸法(二次部材の梁) (m) $l_{y i}$: 梁間寸法(一次部材の梁) (m) i : 梁に隣接する部材の番号 (i=1, 2)</p> </div> <div data-bbox="1668 1003 2012 1033" data-label="Caption"> <p>第3-14図 制御建屋 梁の評価モデル図</p> </div> <div data-bbox="1736 1648 1899 1675" data-label="Page-Footer"> <p>- 03-別添1-3-45 -</p> </div>	<p>記載の適正化 図表追加に伴う図表番号の変更</p> <p>評価対象部位追加に伴う変更</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
 <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_{x1} = W_x \cdot l_x^2 / 12$ $M_{y1} = W \cdot l_x^2 / 24$ ・中央モーメント $M_{x2} = W_x \cdot l_x^2 / 18$ $M_{y2} = W \cdot l_x^2 / 36$ ・せん断力 $Q_{x1} = W \cdot l_x \cdot 0.52$ $Q_{y1} = W \cdot l_x \cdot 0.46$ <p>なお、 $W_x = W \cdot l_y^4 / (l_x^4 + l_y^4)$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> <p style="text-align: center;">第3-13図 廃棄物処理建屋 屋根スラブの評価モデル図</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_{x1} = W_x \cdot l_x^2 / 12$ $M_{y1} = W \cdot l_x^2 / 24$ ・中央モーメント $M_{x2} = W_x \cdot l_x^2 / 18$ $M_{y2} = W \cdot l_x^2 / 36$ ・せん断力 $Q_{x1} = W \cdot l_x \cdot 0.52$ $Q_{y1} = W \cdot l_x \cdot 0.46$ <p>なお、 $W_x = W \cdot l_y^4 / (l_x^4 + l_y^4)$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> <p style="text-align: center;">第3-15図 廃棄物処理建屋 屋根スラブの評価モデル図</p>	<p>記載の適正化</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p>
 <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_{x1} = W_x \cdot l_x^2 / 12$ $M_{y1} = W \cdot l_x^2 / 24$ ・中央モーメント $M_{x2} = W_x \cdot l_x^2 / 18$ $M_{y2} = W \cdot l_x^2 / 36$ ・せん断力 $Q_{x1} = W \cdot l_x \cdot 0.52$ $Q_{y1} = W \cdot l_x \cdot 0.46$ <p>なお、 $W_x = W \cdot l_y^4 / (l_x^4 + l_y^4)$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> <p style="text-align: center;">第3-14図 緊急時対策所建屋 屋根スラブの評価モデル図</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_E = \sum_{i=1}^2 [(\lambda_i^2 / 24 - 1 / 48 + 1 / (192 \cdot \lambda_i)) \cdot W \cdot l_{xi}^3] + \rho \cdot b \cdot l_y^2 / 12$ ・端部せん断力 $Q_E = \sum_{i=1}^2 [(\lambda_i / 4 - 1 / 8) \cdot W \cdot l_{xi}^2] + \rho \cdot b \cdot l_y / 2$ <p> W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) ρ : 自重等による荷重 (kN/m²) ($\rho = \square$ kN/m²) λ_i : l_y / l_{xi} l_{xi} : 梁間寸法 (m) l_y : 支持スパン (m) b : 梁幅 (m) ($b = \square$ m) i : 梁に隣接する部材の番号 ($i=1, 2$)</p> <p style="text-align: center;">第3-16図 廃棄物処理建屋 梁の評価モデル図</p>	<p>評価対象部位追加に伴う図表の追加</p> <p>(次頁への記載内容繰り下がり)</p>

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
	<div data-bbox="1418 457 2279 961" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_{x1} = W \cdot l_x^2 / 12$ $M_{y1} = W \cdot l_x^2 / 24$ ・中央モーメント $M_{x2} = W \cdot l_x^2 / 18$ $M_{y2} = W \cdot l_x^2 / 36$ ・せん断力 $Q_{x1} = W \cdot l_x \cdot 0.52$ $Q_{y1} = W \cdot l_x \cdot 0.46$ <p>なお、 $W_x = W \cdot l_y^4 / (l_x^4 + l_y^4)$ W : 単位面積当たりの荷重 (kN/m²)</p> </div> <p style="text-align: center;">第3-17図 緊急時対策所建屋 屋根スラブの評価モデル図</p> <div data-bbox="1418 982 2279 1381" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・端部モーメント $M_E = \sum_{i=1}^2 [(\lambda_i^2 / 24 - 1 / 48 + 1 / (192 \cdot \lambda_i)) \cdot W \cdot l_{xi}^3] + \rho \cdot b \cdot l_y^2 / 12$ ・端部せん断力 $Q_E = \sum_{i=1}^2 ((\lambda_i / 4 - 1 / 8) \cdot W \cdot l_{xi}^2) + \rho \cdot b \cdot l_y / 2$ <p>W: 単位面積当たりの荷重 (kN/m²) ρ : 自重等による荷重 (kN/m²) ($\rho = \square$ kN/m²) λ_i : l_y / l_{xi} l_{xi} : 梁間寸法 (m) l_y : 支持スパン (m) b : 梁幅 (m) ($b = \square$ m) i : 梁に隣接する部材の番号 ($i=1, 2$)</p> </div> <p style="text-align: center;">第3-18図 緊急時対策所建屋 梁の評価モデル図</p>	<p>(前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p> <p>図表追加に伴う図表番号の変更</p> <p>評価対象部位追加に伴う図表の追加</p> <p>頁の追加</p>

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前						変 更 後						備 考	
第3-20表 原子炉周辺建屋 屋根スラブ 評価条件						第3-20表 原子炉周辺建屋 屋根スラブ 評価条件						記載の適正化	
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)		
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D13@200	635	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D13@200	635		
第3-21表 原子炉周辺建屋 梁 評価条件						第3-21表 原子炉周辺建屋 梁 評価条件							
評価対象部位		支配幅 (m)	支持スパン (m)	断面係数 (cm ³)	せん断断面積 (mm ²)	評価対象部位		片側支配幅 (m)	支持スパン (m)	断面係数 (cm ³)	せん断断面積 (mm ²)		
E.L. <input type="text"/> m	H-600×200×11×17	<input type="text"/>	<input type="text"/>	2,590	6,226	E.L. <input type="text"/> m	H-600×200×11×17	<input type="text"/>	<input type="text"/>	2,590	6,226		
第3-22表 制御建屋 屋根スラブ 評価条件						第3-22表 制御建屋 屋根スラブ 評価条件						評価対象部位追加に伴う変更	
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)		
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19@200	1,435	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19@200	1,435		
第3-23表 制御建屋 梁 評価条件						第3-23表 制御建屋 梁 評価条件							
評価対象部位		支配幅 (m)	支持スパン (m)	断面係数 (cm ³)	せん断断面積 (mm ²)	評価対象部位		梁間寸法 (m)	支持スパン (m)	断面係数 (cm ³)	せん断断面積 (mm ²)		
E.L. <input type="text"/> m	H-800×300×14×26	<input type="text"/>	<input type="text"/>	7,290	10,472	E.L. <input type="text"/> m	H-890×299×15×23	<input type="text"/>	<input type="text"/>	7,760	12,660		
- 03-別添1-3-47 -						- 03-別添1-3-48 -						頁追加に伴う頁番号の変更	

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変 更 前	変 更 後	備 考																																																																												
<p style="text-align: center;">第3-24表 廃棄物処理建屋 屋根スラブ 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>スラブ厚 (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>D19、D22 交互@200 D19@200</td> <td>1,685 1,435</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid black; height: 20px; margin-bottom: 10px;"></div> <p style="text-align: center;">第3-25表 緊急時対策所建屋 屋根スラブ 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>スラブ厚 (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>D20@200</td> <td>3,210</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid black; height: 80px; margin-bottom: 10px;"></div> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-48 -</p>	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19、D22 交互@200 D19@200	1,685 1,435	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D20@200	3,210	<p style="text-align: center;">第3-24表 廃棄物処理建屋 屋根スラブ 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>スラブ厚 (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>D19、D22 交互@200 D19@200</td> <td>1,685 1,435</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">第3-25表 廃棄物処理建屋 梁 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>梁せい (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>梁間寸法 (m)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>8-D32</td> <td>6,352</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;">第3-26表 緊急時対策所建屋 屋根スラブ 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>スラブ厚 (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>D29@200</td> <td>3,210</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">第3-27表 緊急時対策所建屋 梁 評価条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>梁せい (mm)</th> <th>有効せい (mm)</th> <th>梁間寸法 (m)</th> <th>支持スパン (m)</th> <th>配筋</th> <th>配筋量 (片側) (mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L. <input type="text"/> m</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>8-D32</td> <td>6,352</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-49 -</p>	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19、D22 交互@200 D19@200	1,685 1,435	評価対象部位	梁せい (mm)	有効せい (mm)	梁間寸法 (m)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ²)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8-D32	6,352	評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D29@200	3,210	評価対象部位	梁せい (mm)	有効せい (mm)	梁間寸法 (m)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ²)	E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8-D32	6,352	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">評価対象部位追加に伴う図表の追加</p> <p style="text-align: center;">図表追加に伴う図表番号の変更</p> <p style="text-align: center;">評価対象部位追加に伴う図表の追加</p> <p style="text-align: center;">頁追加に伴う頁番号の変更</p>
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)																																																																									
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19、D22 交互@200 D19@200	1,685 1,435																																																																									
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)																																																																									
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D20@200	3,210																																																																									
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)																																																																									
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D19、D22 交互@200 D19@200	1,685 1,435																																																																									
評価対象部位	梁せい (mm)	有効せい (mm)	梁間寸法 (m)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ²)																																																																								
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8-D32	6,352																																																																								
評価対象部位	スラブ厚 (mm)	有効せい (mm)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ² /m)																																																																									
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	D29@200	3,210																																																																									
評価対象部位	梁せい (mm)	有効せい (mm)	梁間寸法 (m)	支持スパン (m)	配筋	配筋量 (片側) (mm ²)																																																																								
E.L. <input type="text"/> m	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8-D32	6,352																																																																								

大飯発電所第3号機 設計及び工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料4 強度に関する説明書 別添1-3 建屋の強度計算書】

変更前	変更後	備考
<p>c. 断面の評価 前項の応力評価モデルにより算出した曲げモーメント及びせん断力を用いて、以下のとおり断面を評価する。</p> <p>(a) 曲げモーメントに対する屋根スラブ断面の評価方法 曲げモーメントに対する断面の評価は、「RC-N 規準」に基づき、次式を基に計算した評価対象部位に必要な引張鉄筋断面積が、配筋量を超えないことを確認する。</p> $a_t = \frac{M}{\sigma_t \cdot j}$ <p>ここで、 a_t : 必要引張鉄筋断面積 (mm²) M : 曲げモーメント (N・mm) σ_t : 鉄筋の短期許容引張応力度 (N/mm²) j : 断面の応力中心距離で、断面の有効せいの7/8 倍の値 (mm)</p> <p>(b) 面外せん断力に対する屋根スラブ断面の評価方法 面外せん断に対する断面の評価は、「RC-N 規準」に基づき、評価対象部位に生じる面外せん断応力が次式を基に計算した評価基準値を超えないことを確認する。</p> $Q_A = \alpha \cdot b \cdot j \cdot f_s$ <p>ただし、 $\alpha = \frac{4}{\frac{M}{Qd} + 1} \quad \text{かつ} \quad 1.0 \leq \alpha \leq 2.0$ <p>ここで、 Q_A : 許容面外せん断力 (N) b : 断面の幅 (mm) (1000mm とする。) j : 断面の応力中心距離で、断面の有効せいの7/8 倍の値 (mm) f_s : コンクリートの短期許容せん断応力度 (N/mm²) α : せん断スパン比 M/(Qd) による割増係数 d : 有効せい (mm) M : 降下火砕物等堆積時の最大曲げモーメント (N・mm) Q : 降下火砕物等堆積時の最大せん断力 (N)</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-49 -</p> </p>	<p>c. 断面の評価 前項の応力評価モデルにより算出した曲げモーメント及びせん断力を用いて、以下のとおり断面を評価する。</p> <p>(a) 曲げモーメントに対する屋根スラブ断面の評価方法 曲げモーメントに対する断面の評価は、「RC-N 規準」に基づき、次式を基に計算した評価対象部位に必要な引張鉄筋断面積が、配筋量を超えないことを確認する。</p> $a_t = \frac{M}{\sigma_t \cdot j}$ <p>ここで、 a_t : 必要引張鉄筋断面積 (mm²) M : 曲げモーメント (N・mm) σ_t : 鉄筋の短期許容引張応力度 (N/mm²) j : 断面の応力中心距離で、断面の有効せいの7/8 倍の値 (mm)</p> <p>(b) 面外せん断力に対する屋根スラブ断面の評価方法 面外せん断に対する断面の評価は、「RC-N 規準」に基づき、評価対象部位に生じる面外せん断応力が次式を基に計算した評価基準値を超えないことを確認する。</p> $Q_A = \alpha \cdot b \cdot j \cdot f_s$ <p>ただし、 $\alpha = 4 / \{M / (Q \cdot d) + 1\} \quad \text{かつ} \quad 1.0 \leq \alpha \leq 2.0$ <p>ここで、 Q_A : 許容面外せん断力 (N) b : 断面の幅 (mm) (1000mm とする。) j : 断面の応力中心距離で、断面の有効せいの7/8 倍の値 (mm) f_s : コンクリートの短期許容せん断応力度 (N/mm²) α : せん断スパン比 M/(Qd) による割増係数 d : 有効せい (mm) M : 降下火砕物等堆積時の最大曲げモーメント (N・mm) Q : 降下火砕物等堆積時の最大せん断力 (N)</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-50 -</p> </p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">頁追加に伴う頁番号の変更</p>

変更前	変更後	備考
<p>(c) 曲げモーメントに対する梁断面の評価方法 曲げモーメントに対する梁断面の評価は、評価対象部位に生じる曲げモーメントが次式を基に計算した評価基準値を超えないことを確認する。</p> $M_s = \sigma_b \cdot Z$ <p>ここで、</p> <p>M_s : 短期許容曲げモーメント (N・mm) σ_b : 短期許容曲げ応力度 (N/mm²) Z : 断面係数 (mm³)</p> <p>(d) せん断力に対する梁断面の評価方法 せん断力に対する梁断面の評価は、評価対象部位に生じるせん断力が次式を基に計算した評価基準値を超えないことを確認する。</p> $Q_s = \tau_s \cdot A_s$ <p>ここで、</p> <p>Q_s : 短期許容せん断力 (N) τ_s : 短期許容せん断応力度 (N/mm²) A_s : せん断断面積 (mm²)</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-50 -</p>	<p>(c) 曲げモーメントに対するS梁断面の評価方法 曲げモーメントに対するS梁断面の評価は、次式を基に計算した評価対象部位に生じる曲げ応力度が評価基準値を超えないことを確認する。</p> $\sigma_b = M/Z$ <p>ここで、</p> <p>σ_b : 曲げ応力度 (N/mm²) M : 曲げモーメント (N・mm) Z : 断面係数 (mm³)</p> <p>(d) せん断力に対するS梁断面の評価方法 せん断力に対するS梁断面の評価は、次式を基に計算した評価対象部位に生じるせん断応力度が評価基準値を超えないことを確認する。</p> $\tau_s = Q/A_s$ <p>ここで、</p> <p>τ_s : せん断応力度 (N/mm²) Q : せん断力 (N) A_s : せん断断面積 (mm²)</p> <p style="text-align: center;">- 03-別添1-3-51 -</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>頁追加に伴う頁番号の変更</p>